

(様式第 10)

伊総第 17-319 号
平成 29 年 10 月 3 日

厚生労働大臣 加藤 勝信 殿

学校法人 東海大学
開設者名 理事長 松前義昭 (印)

東海大学医学部付属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第 1 項及び医療法施行規則（昭和 23 年厚生省令第 50 号）第 9 条の 2 の 2 の第 1 項の規定に基づき、平成 28 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒151-8677 東京都渋谷区富ヶ谷 2-28-4
氏 名	学校法人 東海大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

東海大学医学部付属病院

3 所在の場所

〒259-1193 神奈川県伊勢原市下糟屋143 電話(0463) 93 - 1121 (代)
--

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

① 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜
--

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	有 ・ 無		
内科と組み合わせた診療科名等			
①呼吸器内科	②消化器内科	③循環器内科	4腎臓内科
⑤神経内科	6血液内科	7内分泌内科	8代謝内科
9感染症内科	10アレルギー疾患内科またはアレルギー科	⑪リウマチ科	
診療実績			

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科	有 ・ <input checked="" type="radio"/> 無
外科と組み合わせた診療科名 <input checked="" type="radio"/> 1呼吸器外科 <input checked="" type="radio"/> 2消化器外科 3乳腺外科 4心臓外科 <input checked="" type="radio"/> 5血管外科 <input checked="" type="radio"/> 6心臓血管外科 7内分泌外科 <input checked="" type="radio"/> 8小児外科	
診療実績	

(注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること（「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと）。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

<input checked="" type="radio"/> 1精神科 <input checked="" type="radio"/> 2小児科 <input checked="" type="radio"/> 3整形外科 <input checked="" type="radio"/> 4脳神経外科 <input checked="" type="radio"/> 5皮膚科 <input checked="" type="radio"/> 6泌尿器科 7産婦人科 <input checked="" type="radio"/> 8産科 <input checked="" type="radio"/> 9婦人科 <input checked="" type="radio"/> 10眼科 <input checked="" type="radio"/> 11耳鼻咽喉科 12放射線科 <input checked="" type="radio"/> 13放射線診断科 <input checked="" type="radio"/> 14放射線治療科 <input checked="" type="radio"/> 15麻酔科 16救急科
--

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無
歯科と組み合わせた診療科名 1小児歯科 2矯正歯科 3口腔外科	
歯科の診療体制	

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1 移植外科 2 形成外科 3 リハビリテーション科 4 緩和ケア内科 5 病理診断科 6 臨床検査科 7腎内分泌代謝内科 8血液腫瘍内科 9乳腺内分泌外科 10救命救急科 11歯科口腔外科 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
0床	0床	0床	0床	804床	804床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数	
医 師	502人	139人	522.7人	看 護 補 助 者	147人	診療エックス線技師	0人	
歯 科 医 師	18人	13人	19.3人	理 学 療 法 士	25人	臨床 検査 技師	臨床検査技師	144人
薬 剤 師	82人	1人	82.8人	作 業 療 法 士	9人		衛生検査技師	0人
保 健 師	0人	0人	0人	視 能 訓 練 士	9人	そ の 他	0人	
助 産 師	24人	2人	25.6人	義 肢 装 具 士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人	
看 護 師	992人	72人	1044人	臨 床 工 学 士	31人	医療社会事業従事者	13人	
准 看 護 師	0人	0人	0人	栄 養 士	0人	その他の技術員	14人	
歯 科 衛 生 士	7人	0人	7人	歯 科 技 工 士	1人	事 務 職 員	187人	
管理栄養士	16人	2人	17.2人	診 療 放 射 線 技 師	76人	そ の 他 の 職 員	0人	

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	48人	眼科専門医	7人
外科専門医	45人	耳鼻咽喉科専門医	11人
精神科専門医	2人	放射線科専門医	12人
小児科専門医	8人	脳神経外科専門医	14人
皮膚科専門医	2人	整形外科専門医	16人
泌尿器科専門医	9人	麻酔科専門医	20人
産婦人科専門医	22人	救急科専門医	12人
		合 計	228人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (飯田 政弘) 任命年月日 平成28年4月1日

2005年度医療安全管理委員会委員
 2006年度医療安全管理委員会委員
 2007年度医療安全管理委員会委員
 2016年度医療安全管理委員会オブザーバー
 2017年度医療安全管理委員会オブザーバー

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	764.2人	12.4人	776.6人
1日当たり平均外来患者数	2360.5人	108.7人	2469.2人
1日当たり平均調剤数	1894 剤		
必要医師数	214 人		
必要歯科医師数	2 人		
必要薬剤師数	26 人		
必要(准)看護師数	472 人		

(注)1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。

2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。

3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。

4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
集中治療室	710.72 m ²	鉄筋コンクリート(免震)	病床数	32床	心電計	有・無
			人工呼吸装置	有・無	心細動除去装置	有・無
			その他の救急蘇生装置	有・無	ペースメーカー	有・無
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 159.36 m ² [移動式の場合] 台数 台		病床数	13床		
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床積 82.8 m ² [共用室の場合] 共用する室名					
化学検査室	375.52m ²	鉄筋コンクリート(免震)	(主な設備) 臨床化学多項目自動分析装置			
細菌検査室	199.38m ²	鉄骨鉄筋コンクリート造	(主な設備) 細菌自動分析装置			
病理検査室	284.68m ²	鉄筋コンクリート(免震)	(主な設備) プッシュプル換気装置付流し台・切出台、自動染色装置、自動包埋装置等			
病理解剖室	77.18m ²	鉄骨鉄筋コンクリート造	(主な設備) 解剖台、ホルマリン対応型切出台、プッシュプル換気装置付流し台			
研究室	11114.81m ²	鉄骨鉄筋コンクリート造	(主な設備)			
講義室	1256.16m ²	鉄骨鉄筋コンクリート造	室数	8室	収容定員	810人
図書室	2099.45m ²	鉄骨鉄筋コンクリート造	室数	1室	蔵書数	176,300冊程度

(注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。

2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	82.1%	逆紹介率	60.7%
算出根拠	A：紹介患者の数	22,231 人	
	B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数	20,879 人	
	C：救急用自動車によって搬入された患者の数	5,994 人	
	D：初診の患者の数	34,369 人	

(注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由（注）

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害 関係	委員の要件 該当状況
三木 保	東京医科大学医療の質・安全管理学分野主任教授	○	特定機能病院の医療安全管理責任者・医療安全管理室室長	有 <input checked="" type="radio"/> 無	医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
大塚 達生	弁護士（神奈川県弁護士会）		患者さん側の立場に立った弁護をされている者	有 <input checked="" type="radio"/> 無	医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
山口 育子	認定NPO法人ささえあい医療人権センターCOML 理事長		患者と医療者の協働の実現により医療現場により良いコミュニケーションを築く活動をされている者	有 <input checked="" type="radio"/> 無	医療を受ける者その他の医療従事者以外の者
小林 幹夫	伊勢原市保健福祉部長		行政としての立場及び一般の立場の代表者	有 <input checked="" type="radio"/> 無	医療を受ける者その他の医療従事者以外の者
安田 聖栄	医療法人社団あんしん会四谷メディカルグループ 理事長（元東海大学医学部教授、前東海大学医学部付属病院副院長）		前東海大学医学部付属病院の医療安全統括者	<input checked="" type="radio"/> 有 無	医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
千野 修	東海大学医学部付属東京病院副院長・医療安全対策室長		付属病院群の医療安全に係る責任者の代表者	<input checked="" type="radio"/> 有 無	医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	○有・無
委員の選定理由の公表の有無	○有・無
公表の方法 当院ホームページに委員名簿、委員の選定理由を掲載。 議事録は監査委員会終了後に掲載。	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
急性リンパ性白血病細胞の免疫遺伝子再構成を利用した定量的PCR法による骨髄微小残存病変(MRD)量の測定	0人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
術後のホルモン療法及びS-1内服投与の併用療法原発性乳がん(エストロゲン受容体が陽性であってHER2が陰性のものに限る)	2 人
パクリタキセル静脈内投与(一週間に一回投与するものに限る。)及びカルボプラチン腹腔内投与(三週間に一回投与するものに限る。)の併用療法(上皮性卵巣がん、卵管がん、又は原発性腹膜がん)	1 人
アルテプラゼ [®] 静脈内投与による血栓溶解療法 急性脳梗塞(当該疾病の病状の発症時刻が明らかでない場合に限る。)	2 人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	2	56	ベーチェット病	109
2	筋萎縮性側索硬化症	37	57	特発性拡張型心筋症	32
3	脊髄性筋萎縮症	2	58	肥大型心筋症	29
4	原発性側索硬化症	0	59	拘束型心筋症	1
5	進行性核上性麻痺	15	60	再生不良性貧血	138
6	パーキンソン病	389	61	自己免疫性溶血性貧血	72
7	大脳皮質基底核変性症	12	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	35
8	ハンチントン病	1	63	特発性血小板減少性紫斑病	184
9	神経有棘赤血球症	0	64	血栓性血小板減少性紫斑病	6
10	シャルコー・マリー・トゥース病	1	65	原発性免疫不全症候群	286
11	重症筋無力症	176	66	IgA 腎症	81
12	先天性筋無力症候群	0	67	多発性嚢胞腎	35
13	多発性硬化症／視神経脊髄炎	128	68	黄色靭帯骨化症	15
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎／ 多巣性運動ニューロパチー	35	69	後縦靭帯骨化症	96
15	封入体筋炎	0	70	広範脊柱管狭窄症	2
16	クロウ・深瀬症候群	0	71	特発性大腿骨頭壊死症	72
17	多系統萎縮症	33	72	下垂体性ADH分泌異常症	34
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	100	73	下垂体性TSH分泌亢進症	1
19	ライソゾーム病	12	74	下垂体性PRL分泌亢進症	73
20	副腎白質ジストロフィー	4	75	クッシング病	42
21	ミトコンドリア病	8	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	2
22	もやもや病	62	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	32
23	プリオン病	0	78	下垂体前葉機能低下症	213
24	亜急性硬化性全脳炎	0	79	家族性高コレステロール血症 (ホモ接合体)	0
25	進行性多巣性白質脳症	0	80	甲状腺ホルモン不応症	0
26	HTLV-1関連脊髄症	3	81	先天性副腎皮質酵素欠損症	1
27	特発性基底核石灰化症	0	82	先天性副腎低形成症	0
28	全身性アミロイドーシス	16	83	アジソン病	4
29	ウルリッヒ病	0	84	サルコイドーシス	78
30	遠位型ミオパチー	0	85	特発性間質性肺炎	157
31	ベスレムミオパチー	0	86	肺動脈性肺高血圧症	98
32	自己食空胞性ミオパチー	0	87	肺静脈閉塞症／肺毛細血管腫症	2
33	シュワルツ・ヤンペル症候群	0	88	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	7
34	神経線維腫症	37	89	リンパ脈管筋腫症	5
35	天疱瘡	44	90	網膜色素変性症	23
36	表皮水疱症	0	91	バッド・キアリ症候群	3
37	膿疱性乾癬(汎発型)	1	92	特発性門脈圧亢進症	2
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	5	93	原発性胆汁性肝硬変	258
39	中毒性表皮壊死症	0	94	原発性硬化性胆管炎	14
40	高安動脈炎	44	95	自己免疫性肝炎	158
41	巨細胞性動脈炎	7	96	クローン病	174
42	結節性多発動脈炎	45	97	潰瘍性大腸炎	409
43	顕微鏡的多発血管炎	50	98	好酸球性消化管疾患	3
44	多発血管炎性肉芽腫症	177	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	0
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	35	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	0
46	悪性関節リウマチ	33	101	腸管神経節細胞僅少症	0
47	バージャー病	110	102	ルビンシュタイン・テイビ症候群	0
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	12	103	CFC症候群	0
49	全身性エリテマトーデス	1444	104	コストロ症候群	0
50	皮膚筋炎／多発性筋炎	398	105	チャージ症候群	0
51	全身性強皮症	273	106	クリオビリルン関連周期熱症候群	0
52	混合性結合組織病	450	107	全身型若年性特発性関節炎	0
53	シェーグレン症候群	855	108	TNF受容体関連周期性症候群	0
54	成人スチル病	20	109	非典型溶血性尿毒症症候群	0
55	再発性多発軟骨炎	4	110	ブラウ症候群	0

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
111	先天性ミオパチー	0	161	家族性良性慢性天疱瘡	0
112	マリネスコ・シェーグレン症候群	0	162	類天疱瘡 (後天性表皮水疱症を含む。)	16
113	筋ジストロフィー	7	163	特発性後天性全身性無汗症	0
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	0	164	眼皮膚白皮症	0
115	遺伝性周期性四肢麻痺	1	165	肥厚性皮膚骨膜炎	0
116	アトピー性脊髄炎	0	166	弾性線維性仮性黄色腫	0
117	脊髄空洞症	3	167	マルファン症候群	6
118	脊髄髄膜瘤	1	168	エーラス・ダンロス症候群	2
119	アイザックス症候群	0	169	メンケス病	0
120	遺伝性ジストニア	0	170	オクシピタル・ホーン症候群	0
121	神経フェリチン症	0	171	ウィルソン病	2
122	脳表ヘモジデリン沈着症	0	172	低ホスファターゼ症	0
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う 常染色体劣性白質脳症	0	173	VATER症候群	0
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う 常染色体優性脳動脈症	0	174	那須・ハコラ病	0
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う 遺伝性びまん性白質脳症	0	175	ウィーバー症候群	0
126	ペリー症候群	0	176	コフィン・ローリー症候群	0
127	前頭側頭葉変性症	0	177	有馬症候群	0
128	ビッカースタッフ脳幹脳炎	0	178	モワット・ウィルソン症候群	0
129	痙攣重積型(二相性)急性脳症	0	179	ウィリアムズ症候群	0
130	先天性無痛無汗症	0	180	ATR-X症候群	0
131	アレキサンダー病	0	181	クルーズン症候群	0
132	先天性核上性球麻痺	0	182	アペール症候群	0
133	メビウス症候群	0	183	ファイファー症候群	0
134	中隔視神経形成異常症/ ドモルシア症候群	0	184	アントレー・ビクスラー症候群	0
135	アイカルディ症候群	0	185	コフィン・シリズ症候群	0
136	片側巨脳症	0	186	ロスムンド・トムソン症候群	0
137	限局性皮質異形成	0	187	歌舞伎症候群	0
138	神経細胞移動異常症	0	188	多脾症候群	0
139	先天性大脳白質形成不全症	0	189	無脾症候群	0
140	ドラベ症候群	0	190	鰓耳腎症候群	0
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	0	191	ウェルナー症候群	3
142	ミオクロニー欠神てんかん	0	192	コケイン症候群	0
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	0	193	プラダー・ウィリ症候群	0
144	レノックス・ガストー症候群	0	194	ソトス症候群	0
145	ウエスト症候群	0	195	ヌーナン症候群	0
146	大田原症候群	0	196	ヤング・シンプソン症候群	0
147	早期ミオクロニー脳症	0	197	1p36欠失症候群	0
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	0	198	4p欠失症候群	0
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	0	199	5p欠失症候群	0
150	環状20番染色体体症候群	0	200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	0
151	ラスムッセン脳炎	0	201	アンジェルマン症候群	0
152	P CDH19関連症候群	0	202	スミス・マギニス症候群	0
153	難治頻回部分発作重積型急性脳炎	0	203	22q11.2欠失症候群	0
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示す てんかん性脳症	0	204	エマヌエル症候群	0
155	ランドウ・クレフナー症候群	0	205	脆弱X症候群関連疾患	0
156	レット症候群	0	206	脆弱X症候群	0
157	スタージ・ウェーバー症候群	0	207	総動脈幹遺残症	0
158	結節性硬化症	0	208	修正大血管転位症	0
159	色素性乾皮症	1	209	完全大血管転位症	0
160	先天性魚鱗癬	10	210	単心室症	0

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
211	左心低形成症候群	0	259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	0
212	三尖弁閉鎖症	0	260	シトステロール血症	0
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	0	261	タンジール病	0
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	0	262	原発性高カイロミクロン血症	0
215	ファロー四徴症	0	263	脳腱黄色腫症	0
216	両大血管右室起始症	0	264	無βリポタンパク血症	0
217	エプスタイン病	0	265	脂肪萎縮症	0
218	アルポート症候群	0	266	家族性地中海熱	0
219	ギャロウェイ・モワト症候群	0	267	高IgD症候群	0
220	急速進行性糸球体腎炎	354	268	中條・西村症候群	0
221	抗糸球体基底膜腎炎	29	269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	0
222	一次性ネフローゼ症候群	326	270	慢性再発性多発性骨髄炎	0
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	2	271	強直性脊椎炎	2
224	紫斑病性腎炎	2	272	進行性骨化性線維異形成症	0
225	先天性腎性尿崩症	0	273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	0
226	間質性膀胱炎(ハンナ型)	0	274	骨形成不全症	2
227	オスラー病	1	275	タナトフォリック骨異形成症	0
228	閉塞性細気管支炎	2	276	軟骨無形成症	0
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	9	277	リンパ管腫症/ゴーム病	0
230	肺胞低換気症候群	4	278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	0
231	α1-アンチトリプシン欠乏症	0	279	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	0
232	カーニー複合	0	280	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	1
233	ウォルフラム症候群	0	281	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	0
234	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)	0	282	先天性赤血球形成異常性貧血	0
235	副甲状腺機能低下症	9	283	後天性赤芽球癆	8
236	偽性副甲状腺機能低下症	0	284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	0
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症	0	285	ファンコニ貧血	12
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	1	286	遺伝性鉄芽球性貧血	0
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	0	287	エプスタイン症候群	0
240	フェニルケトン尿症	0	288	自己免疫性出血病XIII	0
241	高チロシン血症1型	0	289	クロンカイト・カナダ症候群	1
242	高チロシン血症2型	0	290	非特異性多発性小腸潰瘍症	0
243	高チロシン血症3型	0	291	ヒルシュスプルング病(全結腸型又は小腸型)	0
244	メープルシロップ尿症	0	292	総排泄腔外反症	0
245	プロピオン酸血症	0	293	総排泄腔遺残	0
246	メチルマロン酸血症	0	294	先天性横隔膜ヘルニア	0
247	イソ吉草酸血症	0	295	乳幼児肝巨大血管腫	0
248	グルコーストランスポーター1欠損症	0	296	胆道閉鎖症	0
249	グルタル酸血症1型	0	297	アラジール症候群	0
250	グルタル酸血症2型	0	298	遺伝性膝炎	0
251	尿素サイクル異常症	0	299	嚢胞性線維症	0
252	リジン尿性蛋白不耐症	0	300	IgG4関連疾患	5
253	先天性葉酸吸収不全	0	301	黄斑ジストロフィー	0
254	ポルフィリン症	0	302	レーベル遺伝性視神経症	0
255	複合カルボキシラーゼ欠損症	0	303	アッシャー症候群	0
256	筋型糖原病	0	304	若年発症型両側性感音難聴	76
257	肝型糖原病	0	305	遅発性内リンパ水腫	0
258	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	0	306	好酸球性副鼻腔炎	8

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾 患 名	患者数		疾 患 名	患者数
307	カナバン病		319	セピアプテリン還元酵素 (SR) 欠損症	
308	進行性白質脳症		320	先天性グリコシルホスファチジル イノシトール (GPI) 欠損症	
309	進行性ミオクロームスてんかん		321	非ケトーシス型高グリシン血症	
310	先天異常症候群		322	β -ケトチオラーゼ欠損症	
311	先天性三尖弁狭窄症		323	芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	
312	先天性僧帽弁狭窄症		324	メチルグルタコン酸尿症	
313	先天性肺静脈狭窄症		325	遺伝性自己炎症疾患	
314	左肺動脈右肺動脈起始症		326	大理石骨病	
315	ネイルパテラ症候群 (爪膝蓋骨症候群) / LMX1B 関連腎症		327	特発性血栓症 (遺伝性血栓性素因 によるものに限る。)	
316	カルニチン回路異常症		328	前眼部形成異常	
317	三頭酵素欠損症		329	無虹彩症	
318	シトリン欠損症		330	先天性気管狭窄症	

(注) 「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。
No.307～330については、2017年4月からの指定難病のため、実績不明。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・特定機能病院入院基本料(一般7対1)	・地域歯科診療支援病院歯科初診料
・超急性期脳卒中加算	・歯科外来診療環境体制加算
・診療録管理体制加算1	・歯科診療特別対応連携加算
・医師事務作業補助体制加算[(口)20対1]	・
・急性期看護補助体制加算(25対1)	・
・看護職員夜間配置加算(12対1)	・
・療養環境加算	・
・無菌治療室管理加算1・2	・
・緩和ケア診療加算	・
・栄養サポートチーム加算	・
・医療安全対策加算1	・
・感染防止対策加算1・感染防止対策地域連携加算	・
・患者サポート体制充実加算	・
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算	・
・ハイリスク妊娠管理加算	・
・ハイリスク分娩管理加算	・
・退院支援加算2	・
・呼吸ケアチーム加算	・
・救命救急入院料3・4	・
・特定集中治療室管理料4(小児加算)	・
・総合周産期特定集中治療室管理料(母胎・胎児、新生児)	・
・新生児治療回復室入院医療管理料	・
・病棟薬剤業務実施加算1・2	・
・データ提出加算2	・
・小児入院医療管理料2・4	・
・地域歯科診療支援病院入院加算	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・高度難聴指導管理料	・神経学的検査
・糖尿病合併症管理料	・補聴器適合検査
・がん性疼痛緩和指導管理料	・小児食物アレルギー負荷検査
・がん患者指導管理料1・2	・内服・点滴誘発試験
・外来緩和ケア管理料	・センチネルリンパ節生検
・移植後患者指導管理料(臓器・造血幹細胞)	・画像診断管理加算1・2
・糖尿病透析予防指導管理料	・遠隔画像診断
・院内トリアージ実施料	・ポジトロン断層撮影
・外来放射線照射診療料	・ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影
・がん治療連携計画策定料	・CT撮影及びMRI撮影
・肝炎インターフェロン治療管理料	・冠動脈CT撮影加算
・薬剤管理指導料	・外傷全身CT加算
・医療機器安全管理料1・2	・心臓MRI撮影加算
・医療機器安全管理料(歯科)	・乳房MRI撮影加算
・在宅血液透析指導管理料	・外来化学療法加算1
・持続血糖測定器加算	・無菌製剤処理料
・遺伝学的検査(遺伝学的検査の注)	・心大血管疾患リハビリテーション料(I)
・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	・脳血管疾患等リハビリテーション料(I)
・検体検査管理加算 I・IV	・運動器リハビリテーション料(I)
・遺伝カウンセリング加算	・呼吸器リハビリテーション料(I)
・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	・がん患者リハビリテーション料
・時間内歩行試験	・通院・在宅精神療法(児童思春期精神科専門管理加算)
・胎児心エコー法	・エタノールの局所注入 (甲状腺に対するもの・副甲状腺に対するもの)
・ヘッドアップティルト試験	・透析液水質確保加算2
・皮下連続式グルコース測定	・
・脳波検査判断料1	・

施設基準の種類	施設基準の種類
・皮膚悪性腫瘍切除術(悪性黒色腫センチネルリンパ節加算を算定する場合に限る。)	・腹腔鏡下腓体尾部腫瘍切除術
・組織拡張器による再建手術(乳房(再建手術)の場合に限る。)	・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・腫瘍脊椎骨全摘術	・体外衝撃波腎・尿管破碎術
・頭蓋骨形成手術(骨移動を伴うものに限る。)	・腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む。)及び脳刺激装置交換術	・同種死体腎移植術
・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	・生体腎移植術
・緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
・網膜再建術	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術
・人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)	・輸血管理料 I
・上顎洞形成術(骨移動を伴う場合に限る。)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)[歯科診療以外の診療に係るものに限る]	・輸血適正使用加算
・乳腺悪性腫瘍手術(乳頭乳輪温存乳房切除術)	・貯血式自己血輸血管理体制加算
・乳腺悪性腫瘍手術(注1・注2)	・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)	・麻酔管理料(I)・(II)
・肺悪性腫瘍手術(壁側・臓側胸膜全切除(横隔膜・心膜合併切除を伴うものに限る))	・放射線治療専任加算
・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)	・外来放射線治療加算
・経カテーテル大動脈弁置換術	・高エネルギー放射線治療
・経皮的中心筋焼灼術	・1回線量増加加算
・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術	・強度変調放射線治療(IMRT)
・両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術	・画像誘導放射線治療加算(IGRT)
・植込型除細動器移植術、植込型除細動器交換術及び経静脈電極抜去術(レーザーシースを用いるもの)	・体外照射呼吸性移動対策加算
・両室ペースメーカー機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペースメーカー機能付き植込型除細動器交換術	・定位放射線治療
・大動脈バルーンパンピング法(IABP法)	・定位放射線治療呼吸性移動対策加算
・補助人工心臓	・画像誘導密封小線源治療加算
・胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る)	・病理診断管理加算2
・体外衝撃波胆石破碎術	・
・腹腔鏡下肝切除術	・
・体外衝撃波腓石破碎術	・

施設基準の種類	施設基準の種類
・歯科治療総合医療管理料Ⅰ・Ⅱ	・歯科矯正診断料
・歯周組織再生誘導手術	・歯科技工加算
・歯科口腔リハビリテーション料2	・広範囲顎骨支持型装置埋入手術
・口腔病理診断管理加算1	・クラウン・ブリッジ維持管理料

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。

(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	6 回 / 年
剖 検 の 状 況	剖検症例数 44 例 / 剖検率 5.4 %

(注) 「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
皮膚筋炎に併発する急速進行性間質性肺炎の病態解明と新規治療法開発の試み	佐藤 慎二	リウマチ内科学	1,100,000	補委 文部科学省 科学研究費助成事業
Notchシグナル活性化による骨代謝制御と骨肉腫発症の分子メカニズムの解明	六車 ゆかり	血液・腫瘍内科学	1,000,000	補委 文部科学省 科学研究費助成事業
酸化ストレス増強に基づく新たな低侵襲性急性白血病治療法の開発	川田 浩志	血液・腫瘍内科学	1,100,000	補委 文部科学省 科学研究費助成事業
次世代シーケンシングによる造血幹細胞移植後再発腫瘍のHLAアリル欠損解析	青山 泰之	血液・腫瘍内科学	1,000,000	補委 文部科学省 科学研究費助成事業
血漿交換で難治性EBV関連リンパ腫が治る？	幸谷 愛	血液・腫瘍内科学	2,100,000	補委 文部科学省 科学研究費助成事業
Notch活性化型悪性腫瘍を標的とした新規分子標的薬の開発	安藤 潔	血液・腫瘍内科学	1,700,000	補委 文部科学省 科学研究費助成事業
アレルギー性気管支肺真菌症の新規治療標的分子の同定	小熊 剛	呼吸器内科学	700,000	補委 文部科学省 科学研究費助成事業
肺癌での免疫細胞機能障害に関与するマイクロRNAの次世代シーケンサーによる探索	青木 琢也	呼吸器内科学	1,100,000	補委 文部科学省 科学研究費助成事業
ABPM患者気道真菌叢(mycobiota)多様性と病態との関連	浅野 浩一郎	呼吸器内科学	1,100,000	補委 文部科学省 科学研究費助成事業
抗線維化薬の新規スクリーニング法の開発およびその応用	滝原 崇久	呼吸器内科学	1,100,000	補委 文部科学省 科学研究費助成事業
血小板細胞の構成論的理解による心筋梗塞発症メカニズムの理解と制御法の開発	後藤 信哉	循環器内科学	2,700,000	補委 文部科学省 科学研究費助成事業
多施設共同弁膜症データベース構築および日欧米間の弁膜症疾患の特徴の比較解析	大野 洋平	循環器内科学	1,400,000	補委 文部科学省 科学研究費助成事業
腸管繊維化のコラーゲン産生細胞の解析とTGF- β シグナル制御による新規治療戦略	今井 仁	消化器内科学	1,700,000	補委 文部科学省 科学研究費助成事業
マウス胎生期肝前駆細胞における成熟メカニズムの解明	安斎 和也	消化器内科学	1,500,000	補委 文部科学省 科学研究費助成事業
ヒトIPS細胞由来肝前駆細胞の効率的な新規培養法の構築	鶴谷 康太	消化器内科学	1,500,000	補委 文部科学省 科学研究費助成事業
新規血管再生促進性培養細胞移植による脳梗塞治療法の開発	瀧澤 俊也	神経内科学	1,100,000	補委 文部科学省 科学研究費助成事業
糖尿病関連代謝性ストレスに対する糸球体足細胞骨格維持機構の解明と新規治療法の開発	和田 健彦	腎・代謝内科学	1,200,000	補委 文部科学省 科学研究費助成事業
副甲状腺細胞の株化手法の開発	角田 隆俊	腎・代謝内科学	1,300,000	補委 文部科学省 科学研究費助成事業
シナカルセット塩酸塩による過形成副甲状腺への退縮作用の解析	巽 亮子	腎・代謝内科学	1,200,000	補委 文部科学省 科学研究費助成事業
急性腎傷害に伴う骨ミネラル代謝異常の病態解明	駒場 大峰	腎・代謝内科学	1,200,000	補委 文部科学省 科学研究費助成事業
危機管理 鳥インフルエンザ感染個体のスクリーニングに関する研究	中島 功	救命救急医学	9,300,000	補委 文部科学省 科学研究費助成事業

計 21件

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
ウサギ除神経モデルにおけるMIBGを用いた交感神経増生の検討	網野 真理	救命救急医学	1,000,000	①補委 文部科学省 科学研究費助成事業
虚血に耐性を持つ培養皮膚の開発	猪口 貞樹	救命救急医学	1,100,000	①補委 文部科学省 科学研究費助成事業
IL-15と類似した低分子化合物の探索と高齢者敗血症治療への応用	井上 茂亮	救命救急医学	1,400,000	①補委 文部科学省 科学研究費助成事業
細菌由来フェノール酸に注目した新たな敗血症マーカーの探索と治療への応用	辻 友篤	救命救急医学	1,800,000	①補委 文部科学省 科学研究費助成事業
肺移植における気道上皮被覆液中の薬物濃度測定と免疫制御	岩崎 正之	呼吸器外科学	1,100,000	①補委 文部科学省 科学研究費助成事業
肺切除術後の残存肺に生じる潜在的肺損傷が間質性肺炎を悪化させる	大岩 加奈	呼吸器外科学	1,300,000	①補委 文部科学省 科学研究費助成事業
NOTCH1およびHRASの機能的変異による口腔扁平上皮癌モデルの作製	太田 嘉英	口腔外科学	1,100,000	①補委 文部科学省 科学研究費助成事業
口腔扁平上皮癌における分子標的薬耐性メカニズムと対策	山崎 浩史	口腔外科学	1,800,000	①補委 文部科学省 科学研究費助成事業
悪性唾液腺腫瘍におけるTrkB, BDNFの発現と機能の解析	近藤 裕介	口腔外科学	1,000,000	①補委 文部科学省 科学研究費助成事業
口腔癌臨床標本由来の変異NOTCH1の機能解析【新規標的治療開発に向けて】	青山 謙一	口腔外科学	1,200,000	①補委 文部科学省 科学研究費助成事業
腹腔鏡下噴門側胃切除術後再建法別機能評価とQOLに関する研究	野村 栄治	消化器外科学	1,000,000	①補委 文部科学省 科学研究費助成事業
メタボロミクスを活用した食道癌特異的代謝機構の解明と新しいバイオマーカーの探索	小澤 壯治	消化器外科学	1,100,000	①補委 文部科学省 科学研究費助成事業
3次元仮想現実感による胆膵外科手術支援システムの構築と評価	中郡 聡夫	消化器外科学	1,400,000	①補委 文部科学省 科学研究費助成事業
LIM蛋白ZNF185-上皮間葉転換機構のヒト膵癌肝転移マウスモデルを用いた解析	古川 大輔	消化器外科学	1,000,000	①補委 文部科学省 科学研究費助成事業
心筋貫通枝の虚血に対する治療法の開発	秋 頌	心臓血管外科学	900,000	①補委 文部科学省 科学研究費助成事業
網羅的タンパク質解析法を用いた硝子軟骨再生因子の同定	佐藤 正人	整形外科	6,100,000	①補委 文部科学省 科学研究費助成事業
iPS技術とIn Silico創薬による髄核前駆細胞の分化制御と椎間板修復	酒井 大輔	整形外科	3,200,000	①補委 文部科学省 科学研究費助成事業
椎間板変性におけるWntシグナルとアラキドン酸カスケードとの分子メカニズムの解析	檜山 明彦	整形外科	1,100,000	①補委 文部科学省 科学研究費助成事業
損傷脊髄における小胞体ストレスとインフラマソームの関連およびその傷害作用	渡辺 雅彦	整形外科	1,400,000	①補委 文部科学省 科学研究費助成事業
上肢切断へのNerve-Machine Interfaceに基づいた筋電義手開発	高木 岳彦	整形外科	1,600,000	①補委 文部科学省 科学研究費助成事業
multiple チロシンキナーゼ受容体阻害剤の関節軟骨修復効果の検討	長井 敏洋	整形外科	2,300,000	①補委 文部科学省 科学研究費助成事業
アテロローゲン細胞シート複合体による軟骨修復効果	佐藤 正人	整形外科	600,000	①補委 文部科学省 科学研究費助成事業
全国乳癌登録ビッグデータによるがん治療の均てん化と予後予測ツールの開発	徳田 裕	乳腺・内分泌外科学	4,000,000	①補委 文部科学省 科学研究費助成事業

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
MRI情報を活用した頭蓋内血流と髄液循環動態の流体力学的解析	松前 光紀	脳神経外科学	1,200,000	①補委 文部科学省 科学研究費助成事業
ヒト骨格筋由来幹細胞を用いたラット尿道括約筋の再生	中島 信幸	泌尿器科学	1,700,000	①補委 文部科学省 科学研究費助成事業
モルヒネの鎮痛耐性形成に対するNMDA受容体活性調節因子D-セリンの作用	伊藤 健二	麻酔科学	900,000	①補委 文部科学省 科学研究費助成事業
術後譫妄と酸化ストレスとの関連解析	竹山 和秀	麻酔科学	900,000	①補委 文部科学省 科学研究費助成事業
全身麻酔薬による睡眠障害とD体アミノ酸代謝との関連解析	渡邊 真理子	麻酔科学	800,000	①補委 文部科学省 科学研究費助成事業
動脈瘤治療用細径カバードステントの開発:プラズマ技術による表面及び薬剤徐放制御	長谷部 光泉	画像診断学	1,300,000	①補委 文部科学省 科学研究費助成事業
分子イメージングを用いた新たな腫瘍バイオマーカーの開発	橋本 順	画像診断学	2,500,000	①補委 文部科学省 科学研究費助成事業
ナノダイヤモンドによる新規MRリンパ管造影法開発: in vivo study	松本 知博	画像診断学	1,500,000	①補委 文部科学省 科学研究費助成事業
肝細胞癌に対する新規肝動脈化学塞栓物質の開発:視認性の高い薬剤徐放性ビーズ	嶺 貴彦	画像診断学	800,000	①補委 文部科学省 科学研究費助成事業
漢方治療による腎機能改善メカニズムの解明と臨床応用	新井 信	漢方医学	1,400,000	①補委 文部科学省 科学研究費助成事業
糖ペプチドをターゲットとしたCA125の弱点を補う卵巣癌新規バイオマーカーの開発	三上 幹男	産婦人科学	1,200,000	①補委 文部科学省 科学研究費助成事業
胎児と内分泌因子が関与する妊娠維持・分娩発来機構の解明	石本 人士	産婦人科学	1,500,000	①補委 文部科学省 科学研究費助成事業
ヘパリン結合性成長分化因子ミッドカインのヒト胎盤形成における役割	菅野 秀俊	産婦人科学	1,400,000	①補委 文部科学省 科学研究費助成事業
骨格筋由来多能性幹細胞による頭頸部癌切除後神経ネットワークの再生医療	大上 研二	耳鼻咽喉科学	1,400,000	①補委 文部科学省 科学研究費助成事業
骨格筋間質由来幹細胞群シート・ペレットを用いた複雑な顔面神経ネットワークの再構築	齋藤 弘亮	耳鼻咽喉科学	1,000,000	①補委 文部科学省 科学研究費助成事業
先天性腎尿路形態異常の発症における抗酸化防御機構の関与	新村 文男	小児科学	1,100,000	①補委 文部科学省 科学研究費助成事業
ウイルス感染喘息の病態におけるグループ2自然リンパ球の役割と新たな治療ターゲット	加藤 政彦	小児科学	1,200,000	①補委 文部科学省 科学研究費助成事業
脳梗塞後うつ病のリスクファクターの解明と治療システムの構築	三上 克央	精神科学	1,600,000	①補委 文部科学省 科学研究費助成事業
身体疾患に伴ううつ病と栄養に関する観察研究および栄養サポートチームによる介入研究	山本 賢司	精神科学	900,000	①補委 文部科学省 科学研究費助成事業
新発想による日本発次世代高精度放射線治療アルゴリズムの実証	國枝 悦夫	放射線治療科学	600,000	①補委 文部科学省 科学研究費助成事業
創薬開発のための次世代核医学用コンプトンガンマ線カメラの実用化への基礎的開発	株木 重人	放射線治療科学	1,300,000	①補委 文部科学省 科学研究費助成事業
炎症がん由来エクソソームにおける脂質の役割	幸谷 愛	血液・腫瘍内科学	10,000,000	①補委 国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
B型肝炎ウイルスRNAと相互作用する宿主因子の網羅的同定による肝炎・持続感染の制御法開発	幸谷 愛	血液・腫瘍内科学	5,384,616	①補委 国立大学法人東京大学 (国立研究開発法人 日本医療研究開発機構)

計 23件

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
ドクターヘリの適正配置・利用に関する研究	猪口 貞樹	救命救急医学	2,450,000	補委 厚生労働省 科学研究費補助金
アレルギー性気管支肺真菌症の新・診断基準の検証と新規治療開発	浅野浩一郎	呼吸器内科学	16,837,461	補委 国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
抗菌薬3剤併用による難治性潰瘍性大腸炎の治療	白井 孝之	消化器内科学	160,000	補委 国立大学法人北海道大学 (国立研究開発法人日本医療研究開発機構)
薬物性肝障害関連書類の作成、臨床試料収集と関連解析	加川 建弘	消化器内科学	3,100,000	補委 公益財団法人木原記念 横浜生命科学振興財団 (国立研究開発法人日本医療研究開発機構)
PAI-1阻害に基づく新規放射線障害治療薬の臨床開発	安藤 潔	血液・腫瘍内科学	29,259,207	補委 国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
PAI-1阻害に基づく造血幹細胞移植での造血機能改善薬	安藤 潔	血液・腫瘍内科学	7,522,000	補委 株式会社レナサイエンス (国立研究開発法人 日本医療研究開発機構)
免疫遺伝情報に基づく非血縁移植統合データベースの構築と最適なドナー・さい帯血の選択	鬼塚 真仁	血液・腫瘍内科学	434,783	補委 愛知県がんセンター (国立研究開発法人 日本医療研究開発機構)
成人T細胞白血病に対する標準治療としての同種造血幹細胞移植法の確立およびゲノム解析に基づく治療法の最適化に関する研究	鬼塚 真仁	血液・腫瘍内科学	1,000,000	補委 国立がんセンター中央 病院 (国立研究開発法人日本医療研究開発機構)
発症時刻不明の脳梗塞患者に対する静注血栓溶解療法の適応拡大を目指した臨床研究	瀧澤 俊也	神経内科学	307,693	補委 国立研究開発法人国立 循環器病研究センター (国立研究開発法人日本医療研究開発機構)
腹膜透析患者用の新規腹膜保護薬の臨床開発	角田 隆俊	腎・代謝内科学	1,000,000	補委 国立大学法人東北大学 (国立研究開発法人日本医療研究開発機構)
慢性腎臓病(CKD)進行例の実態把握と透析導入回避のための有効な指針の作成に関する研究	深川 雅史	腎代謝内科学	76,924	補委 国立大学法人筑波大学 (国立研究開発法人 日本医療研究開発機構)
臨床病期I/II/III食道癌(T4を除く)に対する胸腔鏡下手術と開胸手術のランダム化比較第III相試験	小澤 壯治	消化器外科学	846,154	補委 学校法人慶應義塾大学 (国立研究開発法人日本医療研究開発機構)
局所進行食道癌に対して、治療の有効性向上を目指した新しい術前治療を確立する研究	小澤 壯治	消化器外科学	1,538,462	補委 国立研究開発法人国立 がん研究センター (国立研究開発法人日本医療研究開発機構)
備蓄・緊急投与が可能な人工赤血球製剤の実用化を目指す研究	河野 光智	呼吸器外科学	1,125,000	補委 公立大学法人奈良県立 医科大学 (国立研究開発法人日本医療研究開発機構)
先天性リンパ管疾患の診療指針作成及び病理・細胞生物学的知見の臨床応用へ向けた研究	上野 滋	小児外科学	307,693	補委 学校法人慶應義塾 (国立研究開発法人 日本医療研究開発機構)
難治性リンパ管異常に対するシロリムス療法確立のための研究	上野 滋	小児外科学	334,800	補委 国立大学法人岐阜大学 (国立研究開発法人日本医療研究開発機構)
再生医療産業化に向けた細胞製造・加工システムの開発/ヒト間葉系幹細胞由来の再生医療製品製造システムの開発	佐藤 正人	整形外科	11,843,062	補委 国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
関節治療を加速する細胞シートによる再生医療の実現	佐藤 正人	整形外科	34,584,616	補委 国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
自己軟骨細胞シートのための統合的評価手法の開発/自己軟骨細胞シートの機能的評価	佐藤 正人	整形外科	15,000,000	補委 DNAチップ研究所 (国立研究開発法人 日本医療研究開発機構)

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
治験の実施に関する研究[g-CSF]	渡辺 雅彦	整形外科	384,616	補 委 公益社団法人日本医師会 (国立研究開発法人 日本医療研究開発機構)
ゲノム医療従事者の育成プログラム開発	和泉 俊一郎	産婦人科学	770,000	補 委 国立がん研究センター (国立研究開発法人 日本医療研究開発機構)
先端医療機器の開発/麻痺した運動や知覚の機能を回復する医療機器・システムの研究開発	藤原 俊之	リハビリテーション科学	17,615,300	補 委 国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
脳卒中後上肢麻痺に対する脳波-BMI リハビリテーションシステムの医師主導治験	藤原 俊之	リハビリテーション科学	576,924	補 委 国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
小型高精度放射線治療装置システムの評価・改善	國枝 悦夫	放射線治療科学	13,267,400	補 委 株式会社アキュセラ (国立研究開発法人日本医療研究開発機構)
粒子線治療における腫瘍の線量応答性観測システムの開発	株木 重人	放射線治療科学	4,000,000	補 委 学校法人東京女子医科大学 (国立研究開発法人日本医療研究開発機構)
リンパ系腫瘍・多発性骨髄腫に対する標準的治療確立のための多施設共同研究	安藤 潔	血液・腫瘍内科学	500,000	補 委 国立研究開発法人 国立がん研究センター
食道がんに対する標準治療確立のための多施設共同研究	小澤 壯治	消化器外科学	500,000	補 委 国立研究開発法人 国立がん研究センター
気管支ぜん息の発症、増悪予防に関する調査研究	望月 博之	小児科学	3,290,314	補 委 独立行政法人 環境再生保全機構
小児気管支喘息の発症とIL-33発現機序に関する研究	望月 博之	小児科学	200,000	補 委 国立研究開発法人 国立成育医療研究センター
子宮がん診療均てん化におけるQIとデータ活用の検討	三上 幹男	産婦人科学	500,000	補 委 国立研究開発法人 国立がん研究センター

計 11件
合計97件

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なるものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Toshiro Seki	医学部内科学系内分泌内科学	A rare case of subclinical primary aldosteronism and subclinical Cushing's syndrome without cardiovascular complications.	Tokai J Exp Clin Med.,201604,Vol41, No1,35-41	Original Article
2	Akihiro Ueda	医学部内科学系総合内科学	Clinical Characteristics of Legionella Pneumonia Diagnosed with Legionella Urinary Antigen Test	The Tokai Journal of Experimental and Clinical Medicine,201604,Vol. 41, No. 1, 2016,8-13	Original Article
3	Takayoshi Suzuki	医学部内科学系消化器内科学	Acute pleulitis caused by mesalamine	Internal Medicine,201604,55,1021-1022	Original Article
4	Fumio Sakamaki	医学部内科学系呼吸器内科学	Pulmonary Hypertension and Inflammation/Infection	Internal Medicine,201606,55(11),1409-1410	Original Article
5	Masayuki Oki	医学部内科学系総合内科学	Primary Effusion Lymphoma-like Lymphoma in a Patient with Neurofibromatosis 1.	The Tokai Journal of Experimental and Clinical Medicine,201609,Vol.41 No.3,123-129	Original Article
6	Norisato Hashimoto	医学部内科学系血液・腫瘍内科学	Human parvovirus B19-induced transient red cell aplasia in a patient with vitamin B12 deficiency.	British Journal of Hematology,201606,173,661	Original Article
7	Genta Kanai	医学部内科学系腎・代謝内科学	A Case of Encapsulating Peritoneal Sclerosis Complicated by Malignant Peritoneal Mesothelioma	The Tokai Journal of Experimental and Clinical Medicine,201606,Vol.41 No.3,135-8	Original Article
8	Jin Imai	医学部内科学系消化器内科学	Intestinal Fibrosis and Liver Fibrosis .Consequences of chronic inflammation or independent pathophysiology?	Inflammatory Intestinal Disease,201604,1,41-49	Original Article
9	Gaku Nakazawa	医学部内科学系循環器内科学	Rapid progression of nodular calcification documented by intra-coronary imaging devices and histology	Eur Heart J Cardiovasc Imaging,201604,17,P.899	Original Article
10	Masayuki Oki	医学部内科学系総合内科学	Salmonella enterica serotype Enteritidis vertebral osteomyelitis and epidural abscess complicated with meningitis	The Tokai Journal of Experimental and Clinical Medicine,201609,Vol.41 No.3,169-171	Original Article

計 10件

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
11	Yuji Ikari	医学部内科学系循環器内科学	Retrograde approach via left internal mammary artery using a 5 Fr guiding catheter	Cardiovascular Intervention and Therapeutics,201604,31(2),156-160	Original Article
12	Yuji Ikari	医学部内科学系循環器内科学	Acute compartment syndrome occurring in forearm with relatively small amount of hematoma following transradial coronary intervention	Cardiovascular Intervention and Therapeutics,201604,31(2),147-50	Original Article
13	S. Goto	医学部内科学系循環器内科学	Prediction of Molecular Interaction between Platelet Glycoprotein Ib α and von Willebrand Factor using Molecular Dynamics Simulations.	Journal of Atherosclerosis and Thrombosis,201604,23(4),455-64	Original Article
14	S. Goto	医学部内科学系循環器内科学	Vascular Engineering of Blood Coagulation	Vascular Engineering,201604,2016,211-219	Original Article
15	Yohei Ohno	医学部内科学系循環器内科学	Impact of Chronic Kidney Disease on Outcomes After Percutaneous Mitral Valve Repair With the MitraClip System: Insights From the GRASP Registry	EuroIntervention,201604,11(14),e1649-57	Original Article
16	Yasuo Suzuki	医学部内科学系リウマチ内科学	A Case of Dermatomyositis and Anti-EJ Autoantibody with Chronic Interstitial Pseudoobstruction Successfully Treated with Octreotide	Case Reports in Rheumatology,201611(オンライン),Volume 2016,Article ID 9510316,5 pages	Original Article
17	Kiyoshi Ando	医学部内科学系血液・腫瘍内科学	Four hepatosplenic T-cell lymphoma cases of Japan.	Leukemia Research Reports,201604,5,3-6	Original Article
18	Tetsuya Mine	医学部内科学系消化器内科学	Fatal Hemorrhagic Gastrointestinal Angioectasia after Bone Marrow Transplantation for Dyskeratosis Congenita	Internal Medicine,201611,55,3441-3444	Original Article
19	Tetsuya Mine	医学部内科学系消化器内科学	Successful Eradication Therapy for Helicobacter Pylori-positive Atrophic Gastritis at the Sixth Attempt : A Case Report	Tokai J Exp Clin Med,201610,Vol.41 No.4,233-235	Original Article
20	Norisato Hashimoto	医学部内科学系血液・腫瘍内科学	IgG4-related Disease with Bone Marrow Involvement.	Internal Medicine,201608,55(16),2295-2299	Original Article

計 10件

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
21	Tetsuya Mine	医学部内科学系消化器内科学	Double Common Bile Duct with Ectopic Drainage into the Stomach Found in Asymptomatic	Tokai J Exp Clin Med,201609,Vol 41 No.3,108-111	Original Article
22	Tetsuya Mine	医学部内科学系消化器内科学	Loss of OATP1B3 function causes marked delay in indocyanine green clearance without any clinical symptoms	Hepatology,201610,Vol.64,304	Original Article
23	Seiichiro Kojima	医学部内科学系消化器内科学	Combination therapy using PSE and TIO ameliorates hepatic encephalopathy due to intrahepatic portosystemic venous shunt in idiopathic portal hypertension	Acta Radiologica Open,201609,5(9),1-5	Original Article
24	K. Asano	医学部内科学系呼吸器内科学	A clue in the pathogenesis of adult-onset, eosinophilic lung diseases	Respiratory investigation,201703,55(2),93	Original Article
25	Masayuki Oki	医学部内科学系総合内科学	Epstein-Barr Virus Gastritis	Internal Medicine,201703,56(6),743-744	Original Article
26	Makoto Onizuka	医学部内科学系血液・腫瘍内科学	Danaparoid Reduces the Incidence of Hematopoietic Stem Cell Transplantation-Associated Thrombotic Microangiopathy.	Bone Marrow Transplantation,201702,52(2),307-309	Original Article
27	Kiyoshi Ando	医学部内科学系血液・腫瘍内科学	The formation of an aberrant PAX5 transcript in a patient with mixed phenotype acute leukemia harboring	Leuk Res Rep.,201604,5,14-17	Original Article
28	Eiichiro Nagata	医学部内科学系神経内科学	Inositol Hexakisphosphate Kinase 2 Promotes Cell Death in Cells with Cytoplasmic TDP-43 Aggregation.	Mol Neurobiol,201610,53(8),5377-5383	Original Article
29	Eiichiro Nagata	医学部内科学系神経内科学	Adult-onset Mitochondrial Myopathy, Encephalopathy, Lactic Acidosis, and Stroke (MELAS)-like Encephalopathy Diagnosed Based on the Complete Sequencing of Mitochondrial DNA Extracted from Biopsied Muscle without any Myopathic Changes.	Intern Med,201703,56(1),95-99	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
30	Eiichiro Nagata	医学部内科学系神経内科学	Contrast-enhanced ultrasonography is useful for evaluating the intraplaque neovascularization in aortic complex plaque of ischemic stroke patients.	Med Ultrason,201612,18(4),527-528	Original Article
31	Yasuo Suzuki	医学部内科学系リウマチ内科学	Safety and effectiveness of high-dose methotrexate (over 8mg/week) in 2838 Japanese patients with rheumatoid arthritis: A postmarketing surveillance report	Mod Rheumatology,201703,DOI:10.1080/14397595.2017.1304,	Original Article
32	Masahiro Koizumi	医学部内科学系腎・代謝内科学	Adipocytes do not significantly contribute to plasma angiotensinogen.	Journal of the Renin-Angiotensin Aldosterone System,201610,October-December 2016,1-9	Original Article
33	Takuya Aoki	医学部内科学系呼吸器内科学	Prospective Analyses of Volatile Organic Compounds in Obstructive Sleep Apnea Patients	Toxicological Sciences,201612,156(2),362-374	Original Article
34	Masahiro Koizumi	医学部内科学系腎・代謝内科学	The prevalence of 25-hydroxyvitamin D deficiency in Japanese patients with diabetic nephropathy	Internal Medicine,201609,55,2016,2555-2562	Original Article
35	Yoichi Ohnuki	医学部内科学系神経内科学	Trigeminal Neuropathy Accompanied by a Pontine Lesion on MRI	Internal Medicine,201605,55,1187-1189	Original Article
36	Yoichi Ohnuki	医学部内科学系神経内科学	Dual Therapy with Aspirin and Cilostazol May Improve Platelet Aggregation in Noncardioembolic Stroke patients:A Pilot study	Internal Medicine,201701,56,1307-1313	Original Article
37	Kazuhide Takeyama	医学部外科学系麻酔科学	A Case of Superior Mesenteric Artery Occlusion Caused by Delayed Administration of Anticoagulants in a Patient with Nonvalvular Atrial Fibrillation	Tokai J Exp Clin Med,201604,Vol. 41, No. 1,,pp. 4-7	Original Article
38	Tomoki Nakamura	医学部外科学系消化器外科学	A Surgical Case of Primary Splenic Malignant Lymphoma Complicating Chronic Hepatitis C	The Tokai Journal of Experimental and Clinical Medicine,201604,Vol. 41, No. 1, pp.,30-34	Original Article

計 9件

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
39	Mayura Nakano	医学部外科学系泌尿器科学	Low-dose docetaxel, estramustine and prednisolone combination chemotherapy for castration-resistant prostate cancer	MOLECULAR AND CLINICAL ONCOLOGY,201604,4号,942-946	Original Article
40	Mari Amino	医学部外科学系救命救急医学	Arrhythmogenic substrates in sleep-disordered breathing with arterial hypertension.	Pacing and Clinical Electrophysiology,201604,39,321-329	Original Article
41	Mari Amino	医学部外科学系救命救急医学	Does antiarrhythmic drug during cardio-pulmonary resuscitation improve the one-month survival: The SOS-KANTO 2012 study.	J Cardiovasc Pharmacol,201604,68,58-66	Original Article
42	Soji Ozawa	医学部外科学系消化器外科学	Impact of body mass index on postoperative complications and long-term survival in patients with esophageal squamous cell cancer	Diseases of the Esophagus,201604,29,3,229-235	Original Article
43	Soutarou Sadahiro	医学部外科学系消化器外科学	Increase in gene expression of TYMP,DPYD and HIF1A are associated with response to preoperative chemoradiotherapy including S-1 or UFT for rectal cancer.	Anticancer research,201605,36(5),2433-2440	Original Article
44	Mitsumasa Matsuda	医学部外科学系麻酔科学	Evaluation of lead aprons and their maintenance and management at our hospital	Journal of anesthesia,201606,30,518-521	Original Article
45	Michio Nakamura	医学部外科学系移植外科学	Pathological features of parathyroid glands associated with the pathogenesis of long-lasting persistent hyperparathyroidism after kidney transplantation in long-term dialysis patients.	Transplantation Proceedings,201604,48(3),874-877	Original Article
46	Takatoshi Sorimachi	医学部外科学系脳神経外科学	Enlargement of middle meningeal artery on MRA in chronic subdural hematoma. Journal of Neurosurgery.	Journal of Neurosurgery,201606,124,1679-1683	Original Article
47	Atsushi Suga	医学部外科学系呼吸器外科学	Recurrence in regional pulmonary lymph nodes after surgery for isolated pulmonary metastasis from hepatocellular carcinoma	Gen Thorac Cardiovasc Surg,201606,2016; 64,351-4	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
48	Mitsunobu Otsuru	医学部外科学系口腔外科学	Is an elective neck dissection necessary for all cases of NO oral squamous cell carcinoma?- Elective neck dissection may be performed for tongue cancer with tumor thickness more than 4 mm.	Tokai j Exp Clin Med.,201609,41,112-7	Original Article
49	Mitsunobu Otsuru	医学部外科学系口腔外科学	A case of solitary fibrous tumor of the cheek	Tokai j Exp Clin Med,201609,41,139-42	Original Article
50	Kazuhide Takeyama	医学部外科学系麻酔科学	A Case of Mediastinal Emphysema Possibly Caused by the Insertion of a Laryngoscope	Tokai J Exp Clin Med.,201607,Vol.41, No.2,pp.81-91	Original Article
51	Yasushi Yamasaki	医学部外科学系消化器外科学	Long peptic strictures of the esophagus due to reflux esophagitis: a case report	Surgical Case Reports,201606 (オンライン),2巻64号,Published online 2016 Jun 25. doi: 10.1186/s40792-016-0190-1	Original Article
52	Soutarou Sadahiro	医学部外科学系消化器外科学	Relation between carcinoembryonic antigen levels in colon cancer tissue and serum carcinoembryonic antigen levels at initial surgery and recurrence.	Oncology,201608,91(2),85-89	Original Article
53	Tomoki Nakagawa	医学部外科学系呼吸器外科学	Use of a Titanium Alloy (Chest Way) in the Surgical Stabilizaation of Flail Chest	General Thoracic and Cardiovascular Surgery,201609,volume64 issue9,561-563	Original Article
54	Masami Shimoda	医学部外科学系脳神経外科学	Centripetal Propagation of Vasoconstriction at the Time of Headache Resolution in Patients with Reversible Cerebral Vasoconstriction Syndrome	AJNR,201609,37,1594-98	Original Article
55	Yusuke Nakamura	医学部外科学系呼吸器外科学	Intra-pericardial recurrent thymoma presenting with compression of the pulmonary trunk	Proceedings of Singapore Healthcare,201610 (オンライン),DOI: 10.1177/2010105816667138, DOI: 10.1177/2010105816667138	Original Article
56	Kazuo Umezawa	医学部外科学系救命救急医学	Molecular Characteristics of a Series of Clinical Isolates of Drug-Resistant Acinetobacter baumannii ST219 Strain: The Implications of a Sequence Analysis of the bla OXA-51-like	Journal of Emergency Medicine Trauma and Surgical Care,201606,3(2),1-4	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
57	Genya Mitani	医学部外科学系整形外科学	Seven-Year Follow-up of PCL Reconstruction Combined with Opening-Wedge High Tibial Osteotomy: A Case Report	Journal of Exercise, Sports & Orthopedics,201610,Volume3-Issue2,1-4	Original Article
58	Sadaki Inokuchi	医学部外科学系救命救急医学	Clinical characteristics of α -pyrrolidinovalerophenone (α -PVP) poisoning.	Clinical toxicology,201608,54(7),563-7	Original Article
59	Atsushi Suga	医学部外科学系呼吸器外科学	L-shaped mini-sternotomy combined with videoscopic approach for thymoma with invasion of major veins	Journal of Surgical Case Reports,201612,Volume2016, Issue11, Nov.2016,J Surg Case Rep. 2016 Dec 1;2016(11). pii: rjw199. doi: 10.1093/jscr/rjw199.	Original Article
60	Yoshiyasu Uchiyama	医学部外科学系整形外科学	Retrospective comparison of postoperative infection and bone union between late and immediate intramedullary nailing of Gustilo grades I, II, and IIIA open tibial shaft fractures	Trauma Surgery & Acute Care Open,201609,1,1-4 doi: 10.1136/tsaco-2016-000035	Original Article
61	Kazuhide Takeyama	医学部外科学系麻酔科学	Is the Perfusion Index Useful in Early Detection of High Spinal Subarachnoid Block during Cesarean Section ?	Tokai J Exp Clin Med,201612,Vol. 41, No. 4,pp. 190-197	Original Article
62	Hidenori Zakoji	医学部外科学系泌尿器科学	Hemorrhagic Renal Angiomyolipoma in Pregnancy Effectively Managed by Immediate Cesarean Section and Elective Transcatheter Arterial Embolization: A Case Report	Journal of Endourology,201604,2,65-67	Original Article
63	Hidenori Zakoji	医学部外科学系泌尿器科学	Postrenal Failure due to Urinary Stones Associated with Acute Viral Gastroenteritis: Three Case Reports	Case Report in Urology,201610,2016,1375923	Original Article
64	Kosuke Hamahashi	医学部外科学系整形外科学	Clinical Outcomes of Patients with Valgus Deformity Undergoing Minimally Invasive Total Knee Arthroplasty Through the Medial Approach	The Open Orthopaedics Journal,201612,10,717-724	Original Article
65	Masahiro Nitta	医学部外科学系泌尿器科学	A Case of Mixed Germ Cell Tumor in the Intramedullary Spinal-cord	The Tokai Journal of Experimental and Clinical Medicine,201609,Vol. 41, No. 3, 2016,pp. 147-151	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
66	Kosuke Hamahashi	医学部外科学系整形外科学	Delayed methicillin-resistant Staphylococcus aureus-induced osteomyelitis of the tibia after pin tract infection: two case reports	Journal of Medical Case Reports,201701,11,23	Original Article
67	Taro Kono	医学部外科学系形成外科学	Theoretical review of pigmented lesions treatment in Asians.	Laser Therapy,201610,25(3),179-184	Original Article
68	Toshio Nakagohri	医学部外科学系消化器外科学	Molecular alterations in sporadic pancreatic neuroendocrine micro adenomas	Pancreatology,201605,16(3),411-415	Original Article
69	Toshio Nakagohri	医学部外科学系消化器外科学	Carcinosarcoma of the ampulla of Vater: a case report and literature review	Surgical Case Reports,201612,2巻1号,102	Original Article
70	Naoki Niikura	医学部外科学系乳腺・内分泌外科学	Evaluation of oral care to prevent oral mucositis in estrogen receptor-positive metastatic breast cancer patients treated with everolimus (Oral Care-BC): randomized controlled phase III trial.	Japanese journal of clinical oncology,201609,46(9),879-882	Original Article
71	Toshio Nakagohri	医学部外科学系消化器外科学	Bone morphogenetic protein-2 expression in an intraductal papillary mucinous neoplasm with marked ossification: A case report.	Pathology International,201606,第66巻第6号,343-347	Original Article
72	Kenichi Aoyama	医学部外科学系口腔外科学	Saliva pH affects the sweetness sense	Nutrition,201703,Volume 35,51-55	Original Article
73	Kenichi Aoyama	医学部外科学系口腔外科学	Kikuchi-Fujimoto Disease with 18F-Fludeoxyglucose Uptake in Cervical Lymph Nodes on Dual Time-point Imaging Positron Emission Tomography/Computed Tomography Mimicking Malignant Disease	World Journal of Nuclear Medicine,201701,Volume 16,68-70	Original Article
74	Yasunori Cho	医学部外科学系心臓血管外科学	The SYNTAX score is correlated with long-term outcomes of coronary artery bypass grafting for complex coronary artery lesions	Interactive Cardiovascular and Thoracic Surgery,201607,23(2016),125-132	Original Article
75	Rin Ogiya	医学部外科学系乳腺・内分泌外科学	Comparison of tumor-infiltrating lymphocytes between primary and metastatic tumors in breast cancer patients	Cancer Science,201612,vol. 107 no. 12,1730-1735	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
76	Yusuke Nakamura	医学部外科学系呼吸器外科学	Tracheal Bronchus: Beware of Anomalous Venous Drainage!	Annals of Thoracic Surgery,201703,103,e285	Original Article
77	Takehiko Takagi	医学部外科学系整形外科学	Ray transfer for triplicate digit.	J Hand Surg Eur,201607,41(7),772-773	Original Article
78	Shigeaki Inoue	医学部外科学系救命救急医学	The optimal target for acute glycemic control in critically ill patients: a network meta-analysis.	Intensive Care Med.,201701,43,16-28	Original Article
79	Shigeaki Inoue	医学部外科学系救命救急医学	Comparative Effectiveness of Emergency Resuscitative Thoracotomy versus Closed Chest Compressions among Patients with Critical Blunt Trauma: A Nationwide Cohort Study in Japan.	PloS one.,201612,11,e0145963	Original Article
80	Shigeaki Inoue	医学部外科学系救命救急医学	Reduced Immunocompetent B Cells and Increased Secondary Infection in Elderly Patients With Severe Sepsis.	Shock.,201611,46,270-8.	Original Article
81	Mitsumasa Matsuda	医学部外科学系麻酔科学	Effect of Peptidase Inhibitors on Dynorphin A (1-17) or (1-13)-Induced Antinociception and Toxicity at Spinal Level	Pharmacology & Pharmacy,201702,Vol.8 No.2,33-51	Original Article
82	Mitsumasa Matsuda	医学部外科学系麻酔科学	INHIBITION OF AMPA RECEPTORS AND ACTIVATION OF THE GLYCINE SITE OR POLYAMINE SITE OF NMDA RECEPTORS AT THE SUPRASPINAL LEVEL INDUCES ANTINOCICEPTION	European Journal of Biomedical and Pharmaceutical Sciences,201702,Vol.4, No.3,77-83	Original Article
83	Yasuhiro Suzuki	医学部外科学系乳腺・内分泌外科学	A case of giant phyllodes tumor of the breast associated with hypoglycemia	Tokai J Exp Clin Med,201609,41,118-122	Original Article
84	Hiroshi Miyakita	医学部外科学系消化器外科学	Risk scores as useful predictors of perioperative complications in patients with rectal cancer who received radical surgery	International Journal of Clinical Oncology,201610,22,324-331	Original Article

計 9件

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
85	Takayuki Aoki	医学部外科学系口腔外科学	Analgesic efficacy of celecoxib in patients after oral surgery: special reference to time to onset of analgesia and duration of analgesic effect	Oral Maxillofacial Surgery,201609,20,265-71	Original Article
86	Toshio Nakagohri	医学部外科学系消化器外科学	Laparoscopic splenopancreatectomy for an endocrine tumor with cystic changes: a case report	Clin Case Rep.,201703,第5巻3号,328-332	Original Article
87	Mitsutomo Kohno	医学部外科学系呼吸器外科学	Serial Epithelial Lining Fluid Collection Using Bronchoscopic Microsampling in a Canine Lung Transplantation Model.	The Tokai Journal of Experimental and Clinical Medicine,201612,41(4),218-226	Original Article
88	Makoto Arai	医学部専門診療学系漢方医学	Preparation of clinically useful sennoside-reduced rhubarb	Tokai J Exp Clin Med,201604,41(1),24-29	Original Article
89	Mitsuhiko Kodama	医学部専門診療学系リハビリテーション科学	Premotor potential study for diagnosis of carpal tunnel syndrome	Tokai J Exp Clin Med,201607,41,101-107	Original Article
90	Tomotaka Mabuchi	医学部専門診療学系皮膚科学	Case of Pyoderma Gangrenosum Associated with Ulcerative Colitis Successfully Treated with Infliximab	ARC Journal of Dermatology,201606,Vol.1, Issue 2,4-6	Original Article
91	Tomotaka Mabuchi	医学部専門診療学系皮膚科学	Exacerbation of psoriasis confirmed by drug challenge test of lithium carbonate	ARC Journal of Dermatology,201606,1 (3),1-3	Original Article
92	Tamaki Ichikawa	医学部専門診療学系画像診断学	Kommerel diverticulum in adults: evaluation of routine CT examinations	Tokai J Exp Clin Med.,201606,Vol41, No.2,65-69	Original Article
93	Tomotaka Mabuchi	医学部専門診療学系皮膚科学	Binding Affinity and Interaction of LL-37 with HLA-C*06:02 in Psoriasis	JOURNAL OF INVESTIGATIVE DERMATOLOGY,201609,vol .136, No.9,1901-1903	Original Article
94	Akitomo Sugawara	医学部専門診療学系放射線治療科学	Suicide in patients with gastric cancer: a population-based study.	Japanese Journal of Clinical Oncology,201609,46(9),850-5	Original Article
95	Masahiko Kato	医学部専門診療学系小児科学	Hemophagocytic lymphohistiocytosis caused by systemic herpes simplex virus type 1 infection: Successful treatment with dexamethasone palmitate	Pediatrics International,201605,58(5),390-393	Original Article

計 11件

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
96	Takashi Kasahara	医学部専門診療学系リハビリテーション科学	Analysis the Effectiveness of Oral Massage Using Sono-elastography	Neuroscience and Biomedical Engineering,201608,4(2),120-124	Original Article
97	Kenji Okami	医学部専門診療学系耳鼻咽喉科学	Clinical features and treatment strategy for HPV-related oropharyngeal cancer.	Int J Clin Oncol.,201610,21,827-835	Original Article
98	Kenji Okami	医学部専門診療学系耳鼻咽喉科学	Chondrosarcoma of the hyoid bone - Report of a case and a literature review of the suitable treatment strategy.	Auris Nasus Larynx,201610,44,629-634	Original Article
99	Kota Hirai	医学部専門診療学系小児科学	Objective measurement of frequency and pattern of nocturnal cough in children with asthma exacerbation	Annals of Allergy, Asthma & Immunology,201608,Volume 117, Issue 2 (2016),Pages 169-174	Original Article
100	Tetsu Niwa	医学部専門診療学系画像診断学	Quiet T1-Weighted pointwise encoding time reduction with radial acquisition for assessing myelination in the pediatric brain	AJNR Am J Neuroradiol.,201608,37(8),1528-34	Original Article
101	Tetsu Niwa	医学部専門診療学系画像診断学	Visualization of the airway in infants with MRI using pointwise encoding time reduction with radial acquisition (PETRA). J Magn Reson Imaging.	J Magn Reson Imaging.,201703,45(3),839-844	Original Article
102	Makoto Arai	医学部専門診療学系漢方医学	The education of traditional Japanese (Kampo) medicine: surveys of training hospitals and residents	BMC Complementary and Alternative Medicine,201703 (オンライン),17: 134,doi: 10.1186/s12906-017-1634-2	Original Article
103	Masahiko Kato	医学部専門診療学系小児科学	IP-10 is elevated in virus-induced acute exacerbations in childhood asthma	The Tokai Journal of Experimental and Clinical Medicine,201612,41(4),210-217	Original Article
104	Yuji Koyama	医学部専門診療学系リハビリテーション科学	Proposal for a New Exercise Method for Dysphagia with Velopharyngeal Inadequacy : A Case of Bickerstaff's Brainstem Encephalitis	The Tokai Journal of Experimental and Clinical Medicine,201611,41(3),143 - 146	Original Article
105	Terumitsu Hasebe	医学部専門診療学系画像診断学	Balloon-occluded retrograde transvenous obliteration using a new microballoon for gastric varices	Minim Invasive Ther Allied Technol.,201701,26(3),177-181	Original Article

計 10件

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
106	Terumitsu Hasebe	医学部専門診療学系画像診断学	CT Fluoroscopy-Guided Transsacral Intervertebral Drainage for Pyogenic Spondylodiscitis at the Lumbosacral Junction	CardioVascular and Interventional Radiology,201701,40(1),125-129	Original Article
107	Minoru Toyokura	医学部専門診療学系リハビリテーション科学	Clinical significance of an easy-to-use dual task for assessing inattention.	Disability and Rehabilitation,201701,39(5),503-510	Original Article
108	Masahiko Kato	医学部専門診療学系小児科学	Successful acute lymphoblastic leukemia-type therapy in two children with mixed-phenotype acute leukemia	Pediatrics International,201610,58(10),1072-1076	Original Article
109	Eiji Nomura	医学部外科学系消化器外科学	Function-preserving gastrectomy for gastric cancer in Japan.	World J Gastroenterol,201607,22卷26号,5888-5895	Original Article

計 4件
合計109件

(注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)

3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。

4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。

5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。

記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)

6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1					Original Article
2					Case report
3					
~					

計 件

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・ 手順書の主な内容 事務局の設置、責務・業務、委員の構成と指名、開催と採決、運営、審査委員会情報の公表、審査資料、臨床研究等の審査、審査結果の判定区分、迅速審査、委員長・副委員長及び委員の業務、倫理審査委員会事務局の業務、審査結果の通知	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年 1 2 回

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 規定の主な内容 ・ 学校法人東海大学利益相反に関する規程 ・ 学校法人東海大学利益相反ポリシー	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年 6 回

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年 1 回
・ 研修の主な内容 新規採用職員の入職時研修の一環として全員に臨床研究と倫理について講義形式の研修を義務付けている。 教職員に対しては、大学としてコンプライアンス及び研究倫理について、外部講師を招き講習会を実施している。(講演会は湘南校舎で開催し、伊勢原校舎はTV会議システムで受講) ①講習会と②「科学の健全な発展のために～誠実な科学者の心得～」(日本学術振興会ホームページよりダウンロード)を通読し、③誓約書(理解度チェック付)の提出を以って受講完了としている。 また、講習会欠席者は、後日イントラネットで配信する映像で視聴を行う。	

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

各研修領域の研修プログラムに沿い、到達目標の達成を目指し、専門医取得に向けた臨床研修を実施。

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	107 人
-------------	-------

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
伊莉 裕二	循環器内科	教授	31年	
浅野 浩一郎	呼吸器内科	教授	32年	
小熊 剛	呼吸器内科	准教授	26年	
端山 直樹	呼吸器内科	講師	24年	
峯 徹哉	消化器内科	教授	39年	
小川 吉明	血液腫瘍内科	教授	27年	
安藤 潔	血液腫瘍内科	教授	34年	
瀧澤 俊也	神経内科	教授	36年	
佐藤 慎二	リウマチ内科	教授	24年	
深川 雅史	腎内分泌代謝内科	教授	34年	
關 敏郎	腎内分泌代謝内科	准教授	25年	
豊田 雅夫	腎内分泌代謝内科	准教授	21年	
木村 守次	腎内分泌代謝内科	講師	16年	
高木 敦司	総合内科	教授	39年	
長 泰則	心臓血管外科	教授	27年	
岩崎 正之	呼吸器外科	教授	33年	
中村 道郎	移植外科	教授	30年	
小澤 壮治	消化器外科	教授	35年	
徳田 裕	乳腺内分泌外科	教授	38年	
上野 滋	小児外科	教授	39年	
赤松 正	形成外科	教授	27年	
山本 賢司	精神科	教授	27年	
松本 英夫	精神科	教授	34年	

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
望月 博之	小児科	教授	36年	
鈴木 啓二	小児科	教授	35年	
小池 隆志	小児科	講師	16年	
渡辺 雅彦	整形外科	教授	30年	
松前 光紀	脳神経外科	教授	35年	
馬淵 智生	皮膚科	教授	18年	
宮嶋 哲	泌尿器科	教授	27年	
和泉 俊一郎	産婦人科	教授	39年	
三上 幹男	産婦人科	教授	33年	
石本 人士	産婦人科	教授	30年	
鈴木 康之	眼科	教授	31年	
大上 研二	耳鼻咽喉科	教授	31年	
国枝 悦夫	放射線治療科	教授	35年	
鈴木 利保	麻酔科	教授	35年	
西山 純一	麻酔科	准教授	28年	
松田 光正	麻酔科	講師	18年	
橋本 順	画像診断科	教授	29年	
正門 由久	リハビリテーション科	教授	35年	
宮地 勇人	臨床検査科	教授	35年	
中村 直哉	病理診断科	教授	32年	
猪口 貞樹	救命救急科	教授	39年	
金子 明寛	口腔外科	教授	36年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）

【認定静脈注射看護師講習会】

- ・研修の主な内容
静脈注射を単独で施行できる看護師の育成
- ・研修の期間・実施回数・参加人数
1回目：2016年 5月21日（40人）
2回目：2016年 7月 2日（40人）
3回目：2016年10月15日（40人）
4回目：2017年 1月21日（40人）

② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）

【シフトリーダーナース研修】

- ・研修の主な内容
組織におけるシフトリーダーナースの位置付けとリーダーシップについて学ぶ
- ・研修の期間・実施回数・参加人数
第1回目：2016年11月 8日
第2回目：2016年11月18日（2日間 合計109人）

【トップリーダーナース研修】

- ・研修の主な内容
組織におけるトップリーダーの役割や業務、リーダーに必要なスキルについて学ぶ
- ・研修の期間・実施回数・参加人数
2016年10月 7日（50人）

【モジュラーグループリーダー研修】

- ・研修の主な内容
モジュラーグループの目的、モジュラーグループリーダーの役割や業務を学ぶ
- ・研修の期間・実施回数・参加人数
2017年 3月17日（45人）

【看護単位責任者就任時研修】

- ・研修の主な内容
看護単位責任者の役割、看護管理者としての倫理性
- ・研修の期間・実施回数・参加人数
2017年 3月24日（3名）

【主任就任時研修】

- ・研修の主な内容
主任としての役割と責任（看護単位責任者の補佐・代行業務）について学ぶ
- ・研修の期間・実施回数・参加人数
2016年 5月11日（4人）

【副主任就任時研修】

- ・研修の主な内容
副主任の役割と責任、副主任活動について学ぶ
- ・研修の期間・実施回数・参加人数
2016年 5月24日（11人）

【看護単位責任者研修（リフレッシュ研修）】

- ・研修の主な内容
「看護の概念化」の相乗効果を高めるしくみ、概念化（能力）と看護の概念化支援
- ・研修の期間・実施回数・参加人数
2017年 1月26日（34人）

【主任研修（リフレッシュ研修）】

- ・研修の主な内容
主任としてのマネジメント能力を発揮するために
- ・研修の期間・実施回数・参加人数
2017年 2月 8日（40人）

【副主任研修（リフレッシュ研修）】

- ・研修の主な内容
後輩指導と手指衛生の遵守率向上
- ・研修の期間・実施回数・参加人数
2017年 1月24日（76人）

③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況

- ・研修の主な内容・実施期間・参加人数
2016年 6月16日 : 転倒・転落予防（6名）
2016年 6月16日 : 褥瘡予防基礎編（13名）
2016年 6月16日 : ドレーン管理（1名）
2016年 6月29日 : 周術期の看護（2名）
2016年 9月 5日 : 輸血療法（5名）
2016年10月 3日、17日 : 心電図の理解と不整脈（2日間合計 15名）
2016年11月 7日、21日 : がん化学療法看護基礎編（2日間合計 3名）
2016年12月 5日 : 呼吸理学療法（5名） ・研修の主な内容

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 ②. 現状
管理責任者氏名	飯田 政弘 (病院長)
管理担当者氏名	梅澤 博之 (病院事務部長)

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	病院日誌	伊勢原総務課
		各科診療日誌	伊勢原総務課
		処方せん	薬剤部
		手術記録	診療情報管理課
		看護記録	診療情報管理課
		検査所見記録	診療情報管理課
		エックス線写真	診療情報管理課
		紹介状	診療情報管理課
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二條の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	伊勢原人事課
		高度の医療の提供の実績	医事課総務課
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	研究支援課
		高度の医療の研修の実績	各診療科 医療安全対策課 看護部
	規則第一條の十一第一項に掲げる事項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全対策課
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全対策課
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全対策課
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全対策課

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	院内感染対策室
		院内感染対策のための委員会の開催状況	院内感染対策室
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	院内感染対策室
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	院内感染対策室
		医薬品安全管理責任者の配置状況	医薬品安全管理室
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部 医薬品安全管理室
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部 医薬品安全管理室
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部 医薬品安全管理室
		医療機器安全管理責任者の配置状況	医療機器安全管理責任者（診療技術部長）
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	医療機器安全管理責任者または当該部署
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	医療機器安全管理責任者または当該部署
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医療機器安全管理責任者または当該部署		

ファイル管理（紙・DB）

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十三第一項第一号から第十五号までに掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療安全対策課
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	院内感染対策室
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	医薬品安全管理室
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	診療情報管理課
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	診療情報管理課
		医療安全管理部門の設置状況	医療安全管理課
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医療監査部
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	医薬品安全管理室
		監査委員会の設置状況	医療監査部
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全対策課
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療安全対策課
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療安全調査課 総合相談室
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	医療安全対策課
		職員研修の実施状況	医療安全対策課
管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医療監査部 診療技術部		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

診療に関する諸記録

(手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係わる入院期間の診療経過の要約及び入院診療計画書)

1. 診療記録(含むエックス線写真)の保管期間(電子カルテ化以前分)

- ① 外来カルテ : 診療の完結の日から10年間とし、死亡患者の場合は14年間とする。
- ② 入院カルテ : 診療の完結の日から14年間とする。

※ 上記保管期間を過ぎたもので、教育・研究等で必要とする場合は、別に保管する。

2. 紙カルテ(電子化以前分)の保管方法

- ① 外来カルテ : 2005年10月以前分は、全科1フォルダーの患者ID番号ターミナルディジット分類保管とする。
- ② 入院カルテ : 1入退院毎製本し患者IDターミナルディジット分類による分類保管とする。

3. エックス線写真類(電子カルテ化以前分)の保管分類方法

- ① 2006年1月以前分は、患者ID番号ターミナルディジット分類による分類保管とする。

4. 上記の診療に関する諸記録は、外来診療、入院診療、医学研究等を目的として診療情報管理課閲覧室以外の院内場所へ借り出すことができるが、院外へ持ち出すことはできない。

以上

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	②. 現状
閲覧責任者氏名	梅澤博之（病院事務部長）、岡名秀夫（診療情報管理課長）	
閲覧担当者氏名	岡名秀夫（診療情報管理課長）、石橋利昭（伊勢原総務課長）	
閲覧の求めに応じる場所	診療録閲覧室等	
閲覧の手続の概要		
<p>病院の管理及び運営に関する諸記録については、病院事務部長を閲覧責任者とする。</p> <p>診療に関する諸記録（診療記録等）については、診療記録等の管理責任者である診療情報管理課長を閲覧責任者とし、医療スタッフの閲覧については「診療記録・情報管理規程」に基づき手続きを行う。</p> <p>患者側からの個人情報開示の請求があった場合は、「個人情報開示・訂正等運用細則」に基づき手続きを行う。</p>		

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	件
閲覧者別	医師	延 件
	歯科医師	延 件
	国（特定共同指導）	延 50 件
	地方公共団体	延 件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

(様式第 6)

規則第 1 条の 11 第 1 項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有 無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <p>1. 当院における安全管理に関する基本的考え方 私たち教職員は、全ての行為に対して常に適度な緊張感を持ち、危機管理意識を維持し、安全な医療サービスを提供できるよう努める。</p> <p>2. 医療安全管理委員会および当院の組織に関する基本的事項 (1) 医療に係る医療安全管理体制の確保及び推進を図るため、医療安全管理委員会を設置し、医療安全管理委員会の総括の下に、特定な事項を検討するため、各種の委員会並びに分科会を置き、詳細な運用に関しては別に定める。 (2) 医療に係る安全管理を行う部門として、医療監査部（医療安全対策課・医療安全調査課・院内感染対策室・放射線治療品質管理室・医薬品安全管理室・臨床研究監査室）を置く。 (3) 副院長（医療安全担当）を医療安全管理責任者として配置し、医療監査部、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者を統括する。 (4) 医療安全に係る企画立案・評価・職員の安全管理に関する意識の向上等組織横断的に指導するため専任医療安全管理者（看護師）及び医療安全専任薬剤師を医療安全対策課及び医薬品安全管理室に配置する。</p> <p>3. 職員に対する医療に係る安全管理のための研修に関する基本方針 職員に対する医療に係る安全管理のための研修を「医療安全・感染防止セミナー」と位置づけ全教職員に対して、以下の研修を実施する。 また、研修実施後の学習効果測定を実施する。 なお、新規採用者、異動者、出向終了者、育児休業・産休から復帰した者及び臨床研修医に対する研修は別途実施する。 (1) 医療安全に関する事項 (2) 感染防止対策に関する事項 (3) 医薬品関連に関する事項 (4) 医療機器関連に関する事項 (5) 高難度新規医療技術、未承認新規医薬品等に関する事項 (6) その他重大な事象が発生した事項</p> <p>4. 当院における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策に関する基本方針 (1) インシデント／アクシデント・合併症が発生した場合は、速やかにインシデント情報登録システム（EMI）に必要事項を入力し、医療監査部へレポートを提出する。提出されたレポートが診療録及び看護記録に基づき記載されているかを専任医療安全管理者が検証する。 (2) 医療監査部で検証・分析したアクシデント（レベル 3 b 以上）事例、合併症事例について病院長へ速やかに報告し、医療安全管理委員会にて検討する。 (3) 重要と思われるレポートについては、レポート・事例検討会で検証し、医療安全管理委員会に諮る。さらに、対策が必要な事象については、RCA（根本原因分析）或いは調査委員会で検証する。</p> <p>5. 医療事故等発生時の対応に関する基本方針 当該者の健康回復に全力を尽くすことを優先し、可及的速やかに上司に連絡し指導を仰ぎ、必要に応じて院内に緊急情報を発信し処置を行なう十分な人員を確保する。 その後、当該者や家族に説明する際は、言い訳や憶測を避け、事故の事実関係をできるだけわか</p>	

りやすく、正確に説明する。さらに、重要事象は、原則として24時間以内に事故調査委員会を立ちあげ、事実関係をできるだけ正確かつ時系列に整理する。

6. 医療従事者と患者との間の情報共有に関する基本方針（患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針を含む）

医療安全対策マニュアルは、当院のホームページ及び病院情報システム端末に掲載し、いつでも情報が取得できる環境を構築し公開する。

また、患者からの医療の安全管理及び安全対策等についての質問等があれば積極的に情報を開示する。

7. 患者からの相談への対応に関する基本方針

患者・家族からの相談に適切に応じる体制を確保するために、総合相談室に相談窓口を設置し、安全管理体制の確保について、関係部署に改善等の指導をする。

8. その他医療安全の推進のために必要な基本方針

(1) 各部署にリスクマネージャーを配置し、医療安全管理委員会で決定した医療安全に係る事項を所属員へ周知させる。

また、安全情報としてセイフティ・トピックスの発行並びに各種ガイドラインの策定を行い教職員に周知する。

(2) 高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、適否等を決定する部門を医療監査部に置き、当該高難度新規医療技術が適正な手続きに基づいて提供されているか確認する。

② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況

- ・ 設置の有無（有・無）
- ・ 開催状況：年12回
- ・ 活動の主な内容：

1. 委員構成（委員：31名、オブザーバー：3名、事務局：3名）

医療監査部長（委員長）、専任医療安全管理者、医療監査部次長、院内感染対策室、専任院内感染対策責任者、放射線治療品質管理室、医薬品安全管理室、医薬品安全管理責任者、医療安全専任薬剤師、臨床研究監査室、臨床研修部、医師（内科学系・外科学系・専門診療学系）、医療機器管理・呼吸ケア支援センター、診療技術部、医療機器安全管理責任者、薬剤部、看護部（部長、次長、医療安全対策委員）、褥瘡対策委員会委員長、事務（伊勢原総務課、伊勢原用度管理課、医療安全調査課、医事課、診療情報管理課）

2. 医療安全管理委員会の開催状況

実施：平成28年4月11日、平成28年5月9日、平成28年6月13日、平成28年7月11日、平成28年8月8日、平成28年9月12日、平成28年10月11日、平成28年11月14日、平成28年12月12日、平成29年1月10日、平成29年2月13日、平成29年3月13日

3. 主な内容

- (1) 提出されたインシデント／アクシデント・合併症レポートの検討
- (2) 医療に係る医療安全の諸規程の整備
- (3) 重大な問題が発生した事象に対する事故調査委員会の設置
- (4) 重要な対策が必要な事象に対する「RCA（根本原因分析）検討会」の実施
- (5) 医療安全・感染防止セミナーの企画、実施及びセイフティ・トピックスの発行
- (6) 職員研修実施後の学習効果測定の実施
- (7) 医療安全対策チーム設置の検討
- (8) 東海大学医学部附属病院群への医療安全に関する周知事項の審議
- (9) リスクマネージャー会で検討する事項の審議及びリスクマネージャー会の実施
- (10) 医療安全対策マニュアル及び医療安全基本マニュアル（携帯版）の策定

- (11) 医療安全月間の企画
- (12) 医療機器の保守点検・安全使用に関する体制の確保について医療機器関連分科会で策定した事項を協議する
- (13) 院内感染防止対策委員会、医薬品安全管理委員会及び高難度新規医療技術委員会で策定される院内感染対策、医薬品及び高難度新規医療技術の安全管理体制について連携する
- (14) 厚生労働省への提出事象の分類
- (15) 厚生労働省への医療機器に関する提言事象の抽出
- (16) 前各号に掲げたもののほか委員長が必要と認めた事項

③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況

年10回

・ 研修の主な内容：

1. 第1回医療安全・感染防止セミナー（医療安全の日セミナー）：平成28年4月8日
「医療現場に安全文化を！」「当院における検出細菌の動向と対策」
2. 第2回医療安全・感染防止セミナー：平成28年5月12日
「食中毒から身を守ろう！」「死亡診断書：診療継続中と異常死の判断」「個人情報保護法に基づく情報管理」
3. 第3回医療安全・感染防止セミナー：平成28年6月7日
「厚生労働省の薬剤耐性（AMR）対策アクションプランについて」「看護師による特定行為について」「2015年度インシデント/アクシデントのまとめ」
4. 第4回医療安全・感染防止セミナー：平成28年7月6日
「標準予防策の徹底ー今さらきけない標準予防策ー」「栄養管理体制」「気道管理の注意点」「全死亡例の報告についてー特定機能病院承認要件のみなおしー」
5. 第5回医療安全・感染防止セミナー：平成28年9月9日
「ケモの前にチェック！要注意、B型肝炎再活性化」「当院の脳死下臓器提供について」「医療法施行規則の一部を改正する省令の対応について(1)」
6. 第6回医療安全・感染防止セミナー：平成28年10月5日
「当院における流行性ウイルス感染症対策の現状」「事故が起きる前に知って欲しい医療機器の使い方」「医療法施行規則の一部を改正する省令の対応について(2)」
7. 第7回医療安全・感染防止セミナー：平成28年11月11日
「多剤耐性緑膿菌」「医薬品安全使用のための業務手順書」の改訂と「薬剤安全確保情報の登録について」「医療安全対策マニュアル」の改訂
8. 第8回医療安全・感染防止セミナー：平成29年1月11日
「感染症情報」「褥瘡と体圧管理」「アクシデント事象から考える褥瘡対策」
9. 第9回医療安全・感染防止セミナー：平成29年2月14日
「手指衛生とハンドケア～矛盾点とその対応法を探る～」「規制医薬品について」「もう一度伝えたい!!～MEからのお知らせ～」「暴言・暴力への対応」
10. 第10回医療安全・感染防止セミナー：平成29年3月7日
「結核の隔離・隔離解除基準の変更について」「個人情報保護の取り扱いについて」「2016年度医療安全対策のまとめ」

④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況

- ・ 医療機関内における事故報告等の整備（有・無）
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：

1. 各年度のレポート報告提出枚数
 - 1) 平成11年度：2,892枚
 - 2) 平成12年度：5,534枚
 - 3) 平成13年度：5,132枚
 - 4) 平成14年度：5,179枚
 - 5) 平成15年度：5,634枚
 - 6) 平成16年度：5,517枚

7)平成17年度：5,398枚 8)平成18年度：5,416枚 9)平成19年度：5,685枚
10)平成20年度：6,064枚 11)平成21年度：6,173枚 12)平成22年度：6,060枚
13)平成23年度：5,263枚 14)平成24年度：4,845枚 15)平成25年度：5,277枚
16)平成26年度：4,995枚 17)平成27年度：5,610枚 18)平成28年度：5,818枚

2. 発生した事故等の医療安全管理委員会への報告

インシデント／アクシデント・合併症レポートは専任医療安全管理者がレポート取扱い基準に従い、レポート内容の確認を行い、月別インシデント／アクシデント・合併症レポート一覧表を作成している。医療監査部で一覧表事例の分析及び検証を行い、結果について医療安全管理委員会へ報告を行っている。また、アクシデント（レベル3 b以上）事例、合併症事例について病院長へ速やかに報告し、医療安全管理委員会にて検討している。特に重要な事象はレポート・事例検討会に諮り、レポート・事例検討会で検討された対策案等を医療安全管理委員会へ具申している。

3. 事故等の収集・分析による組織としての改善策の企画立案及びその実施状況の評価と情報の共有

- (1) 月別にインシデント／アクシデントレポートを各事象（CV関連・気道関連・ドレーン関連・化学療法関連・医療機器関連・転倒転落関連・医薬品関連）ごとに統計・解析し、各種会議体（病院運営会議・診療科長会・診療協議会）、RM会、セミナー等で注意を喚起している。
- (2) レポート・事例検討会で提案された対策案等を医療安全管理委員会で審議し、さらに検討・対策が必要な事象は、根本原因分析（RCA）・各分野の医療安全対策チーム（CV関連・気道関連・ドレーン関連・医薬品関連・医療機器関連・転倒転落関連・肺血栓塞栓症関連・抗凝固薬服用中止関連・予期せぬ急変・救急カート・身体抑制/自己抜去防止・患者誤認）で対策案等を検討している。
- (3) 上記で検討された対策案等は、各種会議体（病院運営会議・診療科長会・診療協議会）・RM会・セミナー・セイフティ・トピックス等で周知している。

4. 重大事故発生時の病院管理者への報告及び再発防止策（背景要因・根本原因分析）

- (1) 重大な事故が発生した場合は、手順に従い、速やかに病院長に報告する。また、インシデント／アクシデントレポートとは別に、時系列の報告書（事例報告書）を24時間以内に提出させ、病院長へ報告している。
- (2) 事象に応じて、根本原因分析（RCA）・事故調査委員会・事故検証委員会・外部評価委員会を立ちあげ再発防止策を講ずる。

5. 診療記録等監査

診療記録等の記載から医療過程においてどのような影響があったか。また、診療記録記載以外にも、医療の安全や患者満足度、適正な医療の実施などの評価を4回／年、診療記録等監査として定期開催している。

診療記録等監査の統括の下に、インフォームド・コンセント記載状況確認分科会、診療記録等記載状況確認分科会を置き、各分科会から活動報告を受け適切なインフォームド・コンセント及び診療記録等の記載実施について協議し、医療安全管理委員会へ必要に応じて報告を行っている。

(注) 前年度の実績を記入すること。

(様式第 6)

規則第 1 条の 11 第 2 項第 1 号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有 無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <p>院内感染対策のための指針</p> <p>以下の 7 項目は、平成 19 年 4 月 1 日付で公布された医療法施行規則改正に基づいている。</p> <p>1. 院内感染対策に関する基本的考え方</p> <p>私たち東海大学医学部付属病院において医療に従事する者は、全ての行為に対して常に適度な緊張感を持ち、危機管理意識を維持し、患者診療における院内感染防止対策のため努力する。</p> <p>2. 院内感染対策のための委員会その他の組織に関する基本事項</p> <p>院内感染防止対策委員会</p> <p>(目的)</p> <p>この規程は、東海大学医学部付属病院（以下「本院」という。）における医療関連感染対策に係る必要な事項を定める。</p> <p>(設置)</p> <p>本院に、(医療法施行規則第一条第二項第一号)及び院内感染対策管理のための施設基準に基づき、院内感染防止対策委員会（以下「委員会」という。）を置く。</p> <p>(任務)</p> <p>委員会は次の各号に掲げる事項について審議し、管理者に勧告を行うとともに、管理者の指示に基づいて各部門に対する指導・助言を行う。</p> <p>(1) 感染症発生時などの把握・対策の立案・対応、本指針及び感染対策に関する各マニュアル等の制定・改廃を行う。</p> <p>(2) 必要に応じて各診療科、各病棟・部署と対策を協議する。</p> <p>(3) 病院長の指示をする業務及び委員会で必要と認めた事項を協議する。</p> <p>(4) 委員会における審議事項は、病院運営会議に諮り、医療安全管理委員会、診療科長会、診療協議会へ報告する。</p> <p>(構成)</p> <p>委員会は、院内感染防止対策委員会委員長（以下「委員長」という。）、院内感染防止対策委員会副委員長（以下「副委員長」という。）及び委員をもって構成する。</p> <p>委員長に事故があるときは、副委員長が職務を代行する。</p> <p>委員会は、次の各号に掲げる委員をもって構成される。</p> <p>(1) 病院長</p> <p>(2) 医療監査部長</p> <p>(3) 看護部長</p> <p>(4) 薬剤部長</p> <p>(5) 事務部長</p> <p>(6) 臨床検査科長</p> <p>(7) 院内感染対策室長</p> <p>(8) 中央手術室・中央滅菌材料室長</p> <p>(9) 栄養支援センター長</p> <p>(10) 感染症対策に関し相当の経験を有する医師</p> <p>(11) 前各号に掲げた者のほか委員長が必要と認めた関係者</p> <p>院内感染対策チーム (ICT)</p> <p>(設置目的)</p> <p>院内感染対策チームは、病院における病院感染症の実情を把握し、その発生・蔓延を防止する対策を適正に立案、実行、評価するため設置する。</p>	

(構成員)

院内感染対策チームは、委員会、内科、外科、集中治療部、看護部（内科、外科、集中治療部）、薬剤部、細菌検査室、事務職員から若干名の委員をもって構成する。責任者と委員は病院長が指名・委嘱する。

(職務)

院内感染対策チームは適正な院内感染対策を実施するため、次の業務を行う。

- (1) 院内感染防止対策マニュアルの原案の作成
- (2) 病院感染症対策の具体的立案
- (3) 病院感染症対策の実行、個別事例におけるコンサルテーション
- (4) 病院感染症対策の評価

院内感染対策チーム (ICT) ラウンド

(目的)

この規定は、平成 24 年度診療報酬改定に伴う感染防止対策加算 1 の算定に基づき、「ICT は、1 週間に 1 回程度、定期的に院内を巡回し、院内感染事例の把握を行うとともに、院内感染対策の実施状況の把握・指導を行う。また、院内感染事例、院内感染の発生率に関するサーベイランス等の情報分析、評価し、効率的な感染対策に役立てる。院内感染の増加が確認された場合には病棟ラウンドの所見及びサーベイランスデータ等を基に改善策を講じる。巡回、院内感染に関する情報を記録に残す。」ことを目的とし、ICT ラウンドを行う。

(構成)

本ラウンドは院内感染対策チーム委員である医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師、事務職員から構成され、ラウンドを行う。事務局は、院内感染対策室が行う。

医師は、責任医師と記録医師が、最低 2 名参加する。

看護師は、交代制を取り、最低 2 名参加する。

薬剤師は、原則として専任の薬剤師が参加する。

臨床検査技師は、原則として専任の臨床検査技師が参加する。

やむをえない場合、院内感染対策室付きの臨床検査技師の参加にて代行する。

事務職員は、交代制を取り最低 1 名参加する。

(日時)

毎週火曜日午前 11 時よりラウンドを開催する。

但し、第 5 火曜日と火曜日が祝日となっている場合は原則としてラウンドを行わない。

院内でアウトブレイクが発生するなどの緊急時には、ラウンドを行う。

(場所)

毎週 1 つ以上の病棟のラウンドを行う。ラウンド場所については、前日までに連絡を行う。また、アウトブレイクが発生した場合は、その病棟を重点的に巡回する。

(記録)

ラウンドを行った際は、詳細を記載し院内感染対策チームにて報告を行う。また、問題提起や検討を行い改善に努める。

リンクナース・リンクドクター

(目的)

リンクナース・リンクドクターは、特定機能病院における院内感染防止対策の組織的取組みを強化するため、院内感染対策チームと連携して各診療領域における院内感染防止対策の指導的役割を担うことを目的に設置する。

(構成)

リンクドクターは、病棟医長、外来医長（混合診療科病棟においては各診療科から推薦）からなり、原則的にリスクマネージャーと同一の者である。

リンクナースは、原則的に看護単位ごとの看護部副主任から看護部長に指名される者からなる。

リンクナースおよびリンクドクターは、病院長が任命する。

(職務)

リンクドクターとリンクナースは連携して、各診療領域の感染症発生と蔓延を防止するため感染症患者の動向を把握する。一般医療スタッフにおける感染防止対策上の問題認識向上と啓発指導を図る。

3. 院内感染対策のための従事者に対する研修に関する基本方針

感染対策担当者および院内感染対策チームは、施設全体の職員（委託業者を含め）を対象として、定期的に院内感染防止対策に関する教育、研修を行う。また、新採用職員（途中採用者を含む）において、採用時に随時、院内感染防止対策に関する教育、研修を行う。

感染対策担当者は、院内感染の増加が疑われる、あるいは確定した場合、介入の手段として、部署（診療単位）や職種を限定して、院内感染防止対策に関する教育、研修を行う。リンクドクターとリンクナースは連携して、各診療領域における一般医療スタッフに対して院内感染防止対策上の問題認識向上と啓発指導を図る。

4. 感染症の発生状況の報告に関する基本方針

感染症の院内における発生を迅速に把握できる方法を確立し、院内感染を未然に防ぐ、または蔓延を防止するために、リアルタイムに対策を立てられるようにする。

感染症の発生の報告は、主治医および病棟医長・病棟看護単位責任者から感染症患者発生届出書にて、院内感染対策室を経由して、病院長に提出される。

「感染症法」に規定される届出は、最寄りの保健所長を経由して都道府県知事に届け出る。

5. 院内感染発生時の対応に関する基本方針

院内感染の発生動向の監視（サーベイランス）を実施し、動向の分析に基づき、対策を立案し、改善のための方策を実施する（コンサルテーション）。

院内感染発生時の対応手順を明確化し、文書として「院内感染防止対策マニュアル」に記述し、院内感染発生時には迅速に対応できるようにする。

6. 患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針

院内感染防止対策のための指針（マニュアル）は、全職員が随時参照できるように、病院情報システム用端末の「掲示板」に掲載してある。

また、指針（マニュアル）は、患者が閲覧できるように、病院のホームページにも掲載してある。指針の詳細についての質問があれば、積極的に開示する旨、マニュアルの「序論」に掲載してある。

7. その他の医療機関内における院内感染対策の推進のための必要な基本方針

院内感染防止対策の推進のために必要な方策を明確化し、文書として「院内感染防止対策マニュアル」に記述し、院内感染発生を未然に防ぐ、また発生時に蔓延を防ぐようにする。

院内感染対策室（院内感染担当者）では、感染症の発生状況を把握し、発生状況で重要な動向や患者発生については、病院全体で情報を共有化するよう情報提供する。

② 院内感染対策のための委員会の開催状況

年 1 2 回

・ 活動の主な内容：

1. 委員の構成（委員：22名）

病院長、医療監査部長、看護部長、薬剤部長、事務部長、臨床検査科長、院内感染対策室長、中央手術・中央滅菌材料室長、栄養支援センター長、感染症対策に関し担当の経験を有する医師

2. 主な内容

（1）感染症の地域流行などの感染症情報の把握と提供に関すること。

（2）院内感染発生の監視・疫学調査および情報の提供に関すること。（細菌培養・薬剤感受性などの情報）

- (3) 感染症発生の届出に関する業務およびその情報の保管に関すること。
- (4) 病院環境汚染の把握、医薬品や医療機器汚染の監視・指導に関すること。
- (5) 抗菌薬・消毒薬の使用状況の把握・適正使用の指導に関すること。
- (6) 院内の感染対策や感染制御の立案・実行・評価に関すること。(院内感染防止対策マニュアル)
- (7) 感染対策全般に関するコンサルテーションや指導・教育に関すること。
- (8) 院内感染防止対策に係る経費算定・管理に関すること。
- (9) その他、病院長の指示する業務、あるいは委員会決定事項の遂行に関すること。

3. 院内感染防止対策委員会の開催状況 (平成28年度)

実施：平成28年4月19日、平成28年5月17日、平成28年6月21日、平成28年7月19日、平成28年8月16日、平成28年9月20日、平成28年10月18日、平成28年11月15日、平成28年12月20日、平成29年1月17日、平成29年2月21日、平成29年3月21日

③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況

年10回

・ 研修の主な内容：

1. 第1回医療安全感染防止セミナー (医療安全の日セミナー)：平成28年4月8日
「当院における検出細菌の動向と対策」
2. 第2回医療安全感染防止セミナー：平成28年5月12日
「食中毒から身を守ろう！」
3. 第3回医療安全感染防止セミナー：平成28年6月7日
「厚生労働省の薬剤耐性 (AMR) 対策アクションプランについて」
4. 第4回医療安全感染防止セミナー：平成28年7月6日
「標準予防策の徹底—今さらきけない標準予防策—」
5. 第5回医療安全感染防止セミナー：平成28年9月9日
「ケモの前にチェック！—B型肝炎再活性化—」
6. 第6回医療安全感染防止セミナー：平成28年10月5日
「当院における流行性ウイルス感染症対策の現状」
7. 第7回医療安全感染防止セミナー：平成28年11月11日
「多剤耐性緑膿菌」
8. 第8回医療安全感染防止セミナー：平成29年1月11日
「感染症情報」
9. 第9回医療安全感染防止セミナー：平成28年2月14日
「手指衛生とハンドケア～矛盾点とその対応方法を探る～」
10. 10回医療安全感染防止セミナー：平成29年3月7日
「結核の隔離・隔離解除基準の変更について」

④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況

- ・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有・無)
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：

1. 病院における発生状況の報告等の整備

- (1) 感染症の院内における発生を迅速に把握できる方法を確認し、院内感染を未然に防ぐ、または蔓延を防止するために、リアルタイムに対策を立てられるようにする。
- (2) 感染症の発生の報告は、主治医および病棟医長・病棟看護責任者から感染症患者発生報告書にて、院内感染対策室を経由して、病院長に提出される。
- (3) 「感染症法」に規定される届出は最寄りの保健所長を経由して都道府県知事に届け出る。

2. その他の改善のための方策の主な内容

耐性菌発生時の病棟別、診療科別動向調査を行い、薬剤使用状況との解析による各部署へのフィードバック、さらに担当医に対するコンサルテーションや病棟ラウンドによる感染防止対策。

(注) 前年度の実績を記入すること。

(様式第 6)

規則第 1 条の 11 第 2 項第 2 号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 6 5 回
・ 研修の主な内容 :	
(1) 医療安全・感染防止セミナー ①「医薬品安全使用のための業務手順書」の改訂 「薬剤安全確保情報」の登録について 2016年11月11日 ②「規制医薬品について」 2017年2月14日	
(2) 全職員を対象とした「医療安全に係わる基礎知識」(年2回) Eラーニング	
(3) 臨床助手・臨床研修医に対し、麻薬・向精神薬・筋弛緩剤(毒薬)の取り扱いと薬剤部門の業務 2016年4月1日	
(4) 新人看護師に対する講義(医薬品の安全管理) 2016年4月12日	
(5) 医療安全について 新人薬剤師向けDVD研修 2016年7月	
(6) 救命救急センターにおける麻薬・筋弛緩薬・向精神薬の管理について 研修医向け講義 救命救急センター研修医向け講義 2016年4月1日、5月2日、6月1日、7月1日、8月1日、9月1日、10月1日、11月2日、12月1日、 2017年1月4日、2月1日、3月1日	
(7) 中央手術室における重点管理薬品の管理について 麻酔科研修医向け講義 2016年4月2日、6月4日、8月6日、10月1日、12月3日、2017年2月4日	
(8) 中央手術室における医薬品の管理・運用について 手術室配属新人看護師向け講義 2016年9月3日	
(9) 産科医及び研修医向け講義(妊婦・授乳婦に対する薬物療法) 毎月2~3回(2週間隔)(年16回)	
(10) 6A病棟・MFICU 看護師向け薬剤講義(産科領域で使用する薬剤) 2017年1月	
(11) NICU・GCU 新人看護師向け薬剤講義 2016年4月19日 NICU・GCU 看護師向けクリーンベンチ混注訓練 2016年6月9日、6月10日、6月15日、6月22日、6月23日	
(12) 6B病棟 病棟薬剤業務について 新人看護師向け見学研修 2016年4月13日、4月14日、4月15日	
(13) 6B病棟 看護師向け講義 2017年2月13日 新薬(ヘマンジオルシロップ)について 2017年2月14日 麻薬の取り扱いについて	
(14) 9B病棟 病棟薬剤師業務について 新人看護師向け講義 2016年4月	
(15) 10A・10B病棟 麻薬の管理について 研修医向け講義 2016年4月	
(16) 10B病棟 内服処方オーダー入力方法 医師向け講義 2016年7月20日	
(17) 11A病棟 病棟薬剤業務について 看護師向け講義 2016年8月9日、8月15日	
(18) 11B病棟 看護師向け薬剤講義 2016年9月9日 消化器病棟汎用レジメン 2016年10月6日 制吐剤ガイドライン 2017年3月29日 アブストラルの注意事項について	
(19) 12B病棟 看護師向け薬剤講義 2016年度 オピオイドローテーションについて	
(20) 13B病棟 新人看護師向け薬剤講義 2016年度 インスリンの種類と特徴について 2016年度 耳鼻科で使われる化学療法・副作用について	

③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況

- ・ 手順書の作成 (有 ・ 無)
- ・ 業務の主な内容 :

- ① 医薬品の採用審査に伴う薬事委員会への関与 (月1回)
- ② 医薬品集作成 (年1回)
- ③ 病棟・外来に定数保管されている医薬品の保管状況および品質管理 (年3回)
- ④ 医薬品情報の収集・管理・提供・周知
周知した医薬品情報について医薬品安全管理委員会(月1回開催)に報告し周知状況の確認
- ⑤ 未承認・適応外・禁忌等に該当する処方に関する情報
使用状況について医薬品安全管理委員会(月1回開催)に報告
- ⑥ 規制医薬品の取り扱い等手順書の遵守状況の確認
手順書の遵守状況について病棟専任薬剤師がチェックシートを用い確認しその結果をもとに、医薬品安全ラウンドの実施

④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況

- ・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有 ・ 無)
- ・ その他の改善のための方策の主な内容 :

未承認・適応外・禁忌等に該当する処方に関する情報の収集
病棟薬剤業務等で確認された使用に関する情報を医薬品安全管理委員会(月1回開催)に報告し、使用状況の把握、必要性の検討を行い、医療安全管理委員会に報告する。

薬剤部薬剤科DI係により収集、周知された医薬品情報について、医薬品安全管理委員会(月1回開催)に報告し周知状況の確認を行う。

(前年度実績)

- (1) 医薬品・医療機器等安全情報の配信 (10回)
- (2) 「効能効果」「用法用量」の追加、変更、削除に関するインフォメーションの発行 (8回)
- (3) DIニュースの発行 (16回)
- (4) 医療安全情報の配信 (37回)

(注) 前年度の実績を記入すること。

(様式第6)

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年471回
<ul style="list-style-type: none">研修の主な内容：<ul style="list-style-type: none">第6回 医療安全・感染防止セミナー：平成28年10月5日 (付属病院群) 624名 「事故が起こる前に知ってほしい、医療機器の使い方」第9回 医療安全・感染防止セミナー：平成29年2月14日 (付属病院群) 490名 「もう一度伝えたい！！～MEからのお知らせ～」臨床研修医セミナー：平成28年10月13日 (臨床研修医) 50名 「呼吸管理について：人工呼吸管理の基礎」医療機器の取扱い研修(病棟・各部門等) 人工呼吸器、除細動器、PCPS、IABP、保育器、輸液・シリンジポンプ、患者体温管理装置 生体監視モニター関連、その他	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none">医療機器に係る計画の策定 (有・無)保守点検の主な内容：<ol style="list-style-type: none">人工心肺装置及び補助循環装置：年1回実施人工呼吸器：年2回実施血液浄化装置：年2回実施除細動装置：年1回実施閉鎖式保育器：年1回実施診療用高エネルギー放射線発生装置：年4回実施診療用放射線照射装置：年2回実施<p>点検内容：動作確認、精度確認、摩耗・損耗確認、安全機構確認</p>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none">医療機器に係る情報の収集の整備 (有・無)その他の改善のための方策の主な内容：<ul style="list-style-type: none">医療機器使用時における禁忌情報を“医療安全基本マニュアル(携帯版)”に掲載医療機器関連分科会の指示のもと、医療機器の全般の不具合、使用、管理方法等について、医療機器安全対策チームで安全性等について検討している医療機器関連分科会の下部組織として小委員会を立上げ、医療機器の管理状況、研修の進捗状況を把握するための体制を維持医療機器の安全管理を推進するため、毎月1～2病棟において医療機器に関するラウンドを行い、機器の管理や使用方法の確認、医療機器に関する情報の提供(セントラルモニターアラーム解析結果など)、医療機器に関する相談などを行っている医療機器に関するインシデント・アクシデント事例の調査及び改善	

(注) 前年度の実績を記入すること。

(様式第 6)

規則第 9 条の 23 第 1 項第 1 号から第 15 号に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有・無
<p>・責任者の資格 (医師) 歯科医師)</p> <p>・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>医療監査部を設置し、医療安全担当副院長／医療監査部長が医療安全管理責任者として配置。</p> <p>医療安全管理委員会は、医療監査部長が委員長を務め、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者は委員となり、委員会にて活動報告を求めている。</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有 (4名) ・無
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</p> <p>医薬品に関する情報の収集・整理・周知に関する業務は薬剤部薬剤科 DI 係が行う</p> <ul style="list-style-type: none">・医薬品の添付文書の情報のほか、医薬品製造業者、行政機関 (PMDA 等)、学術誌等から情報を広く収集し整理する・院内で発生した医薬品に係わる副作用情報を積極的に収集し、評価するとともに一元的に管理する <p>医薬品に関する情報の周知は薬剤部薬剤科 DI 係より、各部門、各職種へ病院情報システム、紙媒体などを通じて迅速に提供・周知を行う</p> <ul style="list-style-type: none">・医薬品安全性情報等のうち、迅速な対応が必要となるものを把握した際は、当該医薬品を処方した医師及び投与された患者を速やかに特定し、必要な措置を迅速に講じる。・薬剤部薬剤科 DI 係より発信された情報は院内ポータル掲示板にて常時閲覧可能とする。・病棟専任薬剤師と薬剤部薬剤科 DI 係の薬剤師が必要に応じカンファレンス等を行い病棟専任薬剤師が病棟薬剤業務を実施するにつき必要な情報を提供する。 <p>医薬品安全管理責任者は、医薬品安全管理委員会 (月 1 回開催) に薬剤部薬剤科 DI 係より報告された医薬品に関する情報の周知状況の確認を行う</p> <p>(前年度実績)</p> <ol style="list-style-type: none">(1) 医薬品・医療機器等安全情報の配信 (10 回)(2) 「効能効果」「用法用量」の追加、変更、削除に関するインフォメーションの発行 (8 回)(3) DI ニュースの発行 (16 回)(4) 医療安全情報の配信 (37 回) <p>・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況</p> <p>未承認・適応外・禁忌等に該当する処方に関する情報の収集</p> <p>病棟薬剤業務等で確認された使用に関する情報を医薬品安全管理委員会 (月1回開催) に報告し、使用状況の把握、必要性の検討を行う。</p> <p>医薬品安全管理責任者は収集された情報を、医療安全管理委員会に報告し、情報の共有を図る。また薬剤部薬剤科は得られた情報に留意し業務を行う。</p>	

<ul style="list-style-type: none"> ・ 担当者の指名の有無 (有)・無 ・ 担当者の所属・職種： (所属：薬剤部薬剤科 医薬品安全管理室付，職種 薬剤師) 	
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	(有)・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 (有)・無 ・ 説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容： I C記載状況確認分科会を定期的に開催し、テーマを決めて検証を行っている。I C用紙を使用する際の電子カルテシステムの運用上の問題について、全診療科医師が集まる委員会で周知した。また、患者のサインが漏れたまま検査を行っていた症例があったため、分科会に画像検査、生理検査の責任者を招集し、直接指導した。次の点について「診療記録等監査」に報告し、周知・指導を行う。 <ul style="list-style-type: none"> 1. 定型I C用紙の内容を見直し、不備があると判断したものを医療監査部長とI C管理責任者(診療部長)の連名で作成元に改訂依頼する。 2. 同意書ではなく、病状等を説明するための用紙に不備があり、同意書を流用している診療科があったため、説明書を「病状説明書」として改訂する。 3. 依存症があるなどハイリスク症例に対しては、患者個々に合併症について明確に示すように周知する。 	
⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	(有)・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> 1. 診療録等の記載状況を日々確認し、不十分な記録については、その都度記載医に訂正を求めている。 2. 診療記録等記載状況確認分科会を定期的に開催し、テーマを決めて検証を行っている。 3. 上記2の結果を「診療記録等監査」に報告し、監査部長と診療記録等管理責任者の連名にて指導及び改善勧告を行う。 4. 全科に共通する事項については、医療安全・感染防止セミナー、診療協議会、診療科長会等において、周知・指導を行う。 	
⑥ 医療安全管理部門の設置状況	(有)・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 所属職員：専従（7）名、専任（1）名、兼任（2）名 <ul style="list-style-type: none"> うち医師：専従（ ）名、専任（1）名、兼任（2）名 うち薬剤師：専従（2）名、専任（ ）名、兼任（ ）名 うち看護師：専従（2）名、専任（ ）名、兼任（ ）名 *うち事務：専従（3）名 ※薬剤師、看護師の専従は2016年4月1日付で整備済み ※医師の専従については <ul style="list-style-type: none"> 2017年4月1日に就業時間5割以上を当該業務に従事する者を1名配置 2018年4月1日以降就業時間5割以上を当該業務に従事する者を2名配置 2020年4月1日に就業時間8割以上を当該業務に従事する者を1名配置 <p>(注) 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること</p>	

・活動の主な内容：

- (1) 医療安全管理委員会の運営に関すること
 - ① 医療安全管理委員会の資料及び議事録の作成と保存
 - ② その他医療安全管理委員会の庶務に関すること
- (2) 医療事故等発生時の対応に関すること
 - ① 事故等に関する診療録や看護記録等への記載が正確かつ十分になされていることの確認及び必要な指導を行う
 - ② 患者及び家族への説明など事故発生時の対応状況について確認及び必要な指導を行う
 - ③ 事故等の原因究明が適切に実施されていることを確認及び必要な指導を行う
- (3) 安全管理のための職員に対する教育、研修の企画・運営に関すること
- (4) 医療に係る安全確保を目的とした改善のための方策に関すること
 - ① インシデント及びアクシデント発生時における情報の収集と分析
 - ② 事故予防策、再発予防策の立案・評価及び見直し
- (5) 医療安全に係る連絡調整に関すること
- (6) その他医療安全対策の推進に関すること
- (7) 医療安全に関する官公庁への届出及び報告に関すること
- (8) 診療記録等監査の事務に関すること

※ 診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例

- ・ 診療記録等監査の実施（1回／3か月）
- ・ 3b以上の事象、合併症、死亡事例を病院長へ報告（1回／週）
- ・ 医療監査部ラウンドの実施（2～3回／月）

※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。

※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

- ・ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（有・無）
- ・ 高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有・無）

・活動の主な内容：

- ・ 診療科の長から申請のあった申請内容を確認し、高難度新規医療技術評価委員会へ当該高難度新規医療技術の提供の適否、実施を認める条件等について意見を求める。
- ・ 評価委員会が述べた意見を踏まえ、当該高難度新規医療技術の提供の適否等について決定し、申請のあった診療科の長に対しその結果を通知する。
- ・ 導入後、5症例程度の手術記録、診療録などの記載内容を当該科の長より報告を求める。
- ・ 当該高難度新規医療技術が適正な手続きに基づいて提供されていたかどうかに関し、定期的な及び術後に患者が死亡した場合、その他必要な場合には、診療録等の記載内容を確認する。
- ・ 当該高難度新規医療技術が適正な手続きに基づいて提供されていたかどうか、従業者の遵守状況の確認を行う。
- ・ 医療安全管理委員会と連携する
- ・ 評価委員会に係る事務

- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有・無）
- ・ 高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（有・無）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無 (有 ・ 無)
- ・ 未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無 (有 ・ 無)
- ・ 活動の主な内容 :

診療科の長は、当該診療科において未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合には、あらかじめ、医薬品安全管理室に当該未承認新規医薬品等を用いた医療の提供の申請を行う。

医薬品安全管理室は、診療科の長から申請のあった申請内容を確認するとともに、未承認新規医薬品等評価委員会に対して、当該未承認新規医薬品等の使用の適否、使用条件等について意見を求める。

医薬品安全管理室は、評価委員会が述べた意見を踏まえ、当該未承認新規医薬品等の提供の適否等について決定し、申請を行った診療科の長に対しその結果を通知する。

医薬品安全管理室は、当該未承認新規医薬品等が適正な手続に基づいて使用されていたかどうかに関し、定期的に診療録等の記載内容を確認する。

医薬品安全管理室は未承認新規医薬品等が適正な手続に基づいて使用されていたかどうか、従業者の遵守状況の確認を行う。

医薬品安全管理室は、未承認新規医薬品等の使用の適否等についての結果、及び未承認新規医薬品等規程に定める事項の従業者の遵守状況を病院長に報告する。

医療安全管理委員会と連携する。
- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無 (有 ・ 無)
- ・ 未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無 (有 ・ 無)

⑨ 監査委員会の設置状況

有 無

- ・ 監査委員会の開催状況 : 年 0 回
- ・ 活動の主な内容 :
 - ・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無 (有 ・ 無)
 - ・ 委員名簿の公表の有無 (有 ・ 無)
 - ・ 委員の選定理由の公表の有無 (有 ・ 無)
- ・ 公表の方法 :

監査委員会の委員名簿及び選定理由 (注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害 関係	委員の要件 該当状況
				有・無	
				有・無	
				有・無	
				有・無	

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。
1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
 2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者 (1.に掲げる者を除く。)
 3. その他

⑩ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 4 4 0 件（平成 28 年 10 月～3 月）
- ・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 1 8 0 件（平成 28 年 10 月～3 月）
- ・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容
 - ①診療科からの報告状況の確認及び確認結果の管理者への報告
 - ②提出率を示し、報告状況が不十分な場合は、当該科の長を指導

⑪ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・他の特定機能病院等への立入り（）（病院名： 兵庫医科大学病院 ）・無
- ・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（）（病院名： 兵庫医科大学病院 ）・無
- ・技術的助言の実施状況
 - 2 0 1 7 年 1 月 3 1 日（受入）
 - ・手術室全体の物品等の配置、術後患者の BVM 持参、病棟薬剤師の増員等について
 - 2 0 1 7 年 2 月 1 0 日（訪問）
 - ・医薬品（手順書）ラウンドのメンバー構成、他職種で構成される安全チームの設置等について

⑫ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

- ・体制の確保状況
（患者相談窓口の設置状況）
 - ・設置年月日：昭和 5 4 年 4 月 1 日
 - ・窓口の名称：総合相談室
 - ・相談に応じる時間帯：月曜日～金曜日；9:00～15:00、土曜日（第 2、第 4 を除く）9:00～12:00
 - ・責任者の氏名及び職種：患者支援センター所長／医師
 - ・対応職員：患者支援センター総合相談室 社会福祉士
（窓口の活動に関する患者への明示）
 - ・明示している場所：各科外来、東海ホール・けやき口掲示板、各病棟
 - ・明示内容：活動の趣旨、設置場所、担当者・責任者、対応時間
 - （窓口の活動に関する規約の整備状況）
 - ・規約の整備（平成 1 5 年 4 月 1 日）

（相談により患者や家族が不利益を受けないような適切な配慮）
具体的な配慮の状況

 - * プライバシーの保護、匿名での相談及びご意見箱の設置（無記名での投書を可能としている）
（窓口以外の苦情相談の受付方法）
 - ・電話、投書箱、インターネット相談の実施
 - * 電話相談：総合相談室、当該部署で受けた内容を記録用紙或いは任意の用紙に記載している
 - * ご意見箱の設置：外来 4 ヶ所/会計カウンター・時間外受付・健診センター・調べのコーナー
病棟 11 ヶ所/各病棟ラウンジ 10 ヶ所・救命救急センター 1 ヶ所
 - * インターネット相談：学園の広報課に届き、総務課に転送され対応する

(苦情、相談の処理方法)

*一次対応部門（診療各科、各病棟、当該部署）において、解決に至らない事案については、二次対応部門（総務課、医事課、医療安全対策課/医療安全調査課）に報告・連絡・相談或いは事案の移管をして、連携している。
また、対応結果及び進捗状況について、病院執行部（病院長、副院長、診療部長）に報告をしている。

⑬ 医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況

- ・情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無（有・無）
- ・窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関しする必要な定めの有無（有・無）
- ・窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無（有・無）

⑭ 職員研修の実施状況

・研修の実施状況

「医療安全・感染防止セミナー」と位置づけ全教職員に対して、年10回の開催を計画している。

⑮ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

管理者：未実施

医療安全管理責任者：医療安全マスター養成プログラム（日本医療機能評価機構）を受講
（平成29年3/4～5）

医薬品安全管理責任者：平成28年度医薬品安全管理責任者等講習会を受講（平成28年7/15）

医療機器安全管理責任者：未実施

(注) 前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること）

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類 (任意)

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	① 有・無
・評価を行った機関名、評価を受けた時期 【私立医科大学病院感染対策協議会相互ラウンド】兵庫医科大学病院 平成29年1月31日 【私立医科大学病院医療安全相互ラウンド】兵庫医科大学病院 平成29年1月31日	

(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	① 有・無
・情報発信の方法、内容等の概要 ホームページにて、病院の概要、理念・方針、取組み、診療機能、診療実績、医師の専門性、各種講座・講演会等の情報発信を行っている。 近隣医療機関向けとして、「診療案内」、「のぞみ」等の冊子・チラシ、患者さん向けとして「医学小知識」を定期発行している。 また、院内の掲示板には「病院の理念」、「基本方針」を明示している。	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	① 有・無
・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要 【チーム医療の体制について】 ・栄養サポートチーム・呼吸ケアチーム・緩和ケアチーム・褥瘡対策チーム などの チームが定期的に回診を行い、診療科の枠を超え患者のケアに当たっている	

(様式第 8)

伊総第 17—320 号
平成 29 年 10 月 3 日

厚生労働大臣 加藤 勝信 殿

学校法人 東海大学
開設者名 理事長 松前 義昭 (印)

医療に係る安全管理のための体制整備に関する計画について

標記について、次のとおり提出します。

記

1. 管理職員研修（医療に係る安全管理のための研修、管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者向け）を実施するための予定措置

管理者：2018 年 3 月 31 日までに国及び医療関係団体等が主催する研修会を適宜受講
医療安全管理責任者：医療安全マスター養成プログラム（日本医療機能評価機構）を受講
医薬品安全管理責任者：平成 28 年度医薬品安全管理責任者等講習会を受講
医療機器安全管理責任者：2018 年 3 月 31 日までに国及び医療関係団体等が主催する研修会を適宜受講

2. 医療安全管理部門の人員体制

・所属職員：専従（7）名、専任（1）名、兼任（2）名
うち医師：専従（ ）名、専任（1）名、兼任（2）名
うち薬剤師：専従（2）名、専任（ ）名、兼任（ ）名
うち看護師：専従（2）名、専任（ ）名、兼任（ ）名
*うち事務：専従（3）名

3. 医療安全管理部門の専従職員を配置するための予定措置

※薬剤師、看護師の専従は 2016 年 4 月 1 日付で整備済み
※医師の専従については
2017 年 4 月 1 日に就業時間 5 割以上を当該業務に従事する者を 1 名配置
2018 年 4 月 1 日以降就業時間 5 割以上を当該業務に従事する者を 2 名配置
2020 年 4 月 1 日に就業時間 8 割以上を当該業務に従事する者を 1 名配置